

470

上
記
鈔
譯
前
篇

特 259

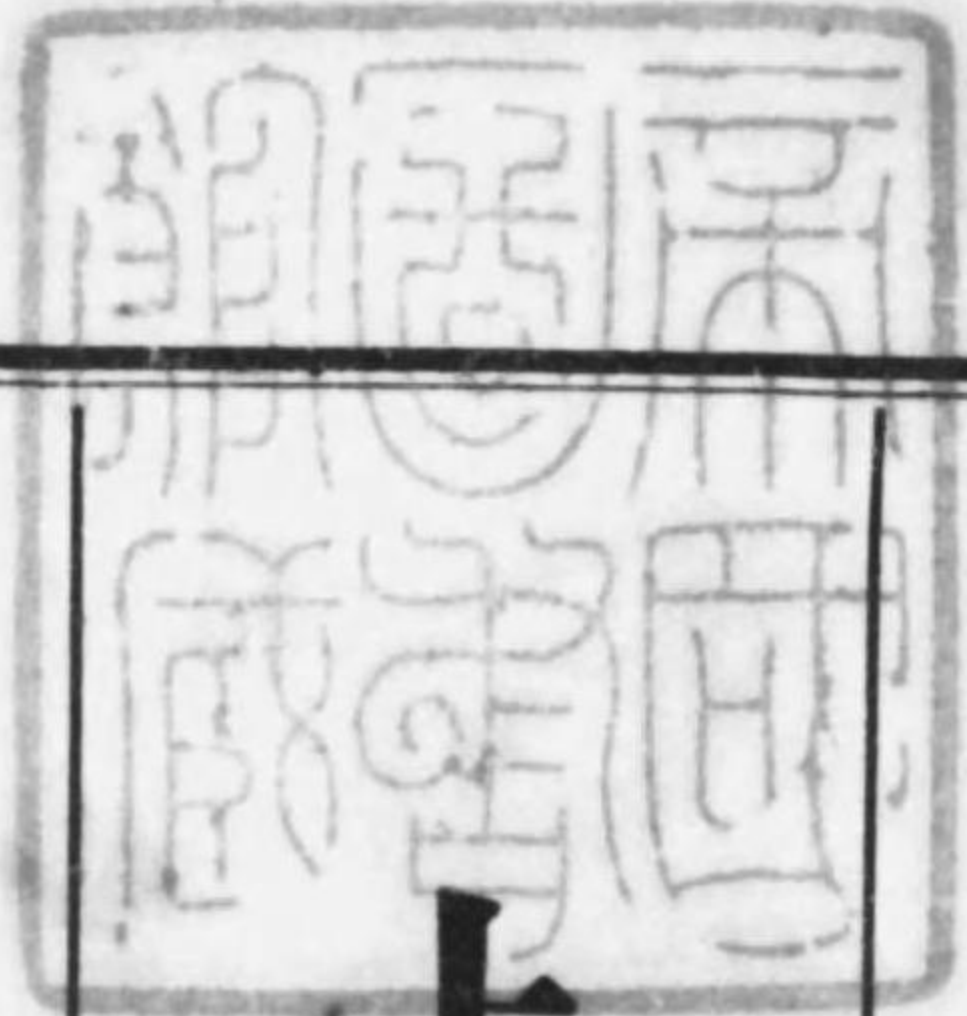
799



始



特259
1799



上
記
鈔
譯



國教宣明團發行

溫

故

原 輯 從四位 大友能直
閱 正五位 森下景瑞
鈔 譯 大分縣士族 吉良義風

上 記 鈔 譯

全歷 三史 冊部

明治十年
七月新鐫

東京 中外堂 發行

知

新

明治十年冬日

去政大士案案題



上記鈔譯序説

去年八月十八日我東京日日新聞第千四百十一號に肥後國山鹿郡相良村に鵜葺草葺不合尊の山陵あり云々の事を載せたるは同國內田川山崎次郎氏の考を熊本新聞に依て節略せし所なるに豊後の吉良義風君より一書を投じて云く去る貞應二年豊後國守護職大友能直朝臣編輯する所のウヘツフミと云へる書に上古の時鵜葺草葺不合尊と稱する天皇七十三代御座まして其第八代媛天皇の山陵は日向と相良の際にありと見えたり義風上記山陵實地考を草し之を教部大輔へ呈進せしは七月二十三日の事にて其時この八代媛天皇の山陵は其所在を知るに由なきゆる未考と記せしに今此新聞紙上に其詳を得て是を補ふことを得たりと記せり依て又是を二十日の新聞紙に載せ且その山陵實地考をも一見せしに未曾有の珍説なるを以て是を九月十二日より

二十六日までの新聞に刊行したるは世人の普く知る所ならん然るに近頃その義風君が上記の全部を鈔譯せられたるを見るに本書は頗る闕簡ある由なれども其書の大體を知るに足れり然して其説たる最も心を傾くべきこと尠きに非らず予曾て思へらく本邦上代の傳説は無稽の荒誕に屬する者多きに似たりと是を國學者流に質すも上古の事は神異測るべからずと云ふに過ず然れども神武東征は隣國支那にて東周の末に當り世既に澆季にして人情世態の古樸を失へるは左傳國語等にて詳なり（天竺埃及は猶以てのこと）然るに其頃まで日本にて天から神人が降るとは海上僅か三四百里の土地にして餘り季候が違ひ過る様に思ひしに今此書を見れば古史に神代と稱する時の事を記すこと甚だ詳にして其間の年代も遠長なり其時代の景況もまた甚だ奇々怪々の事に非らず大略みな尋常人世の事にして紀記の神代卷に録する所の怪説は此事の謬傳ならんと思ふ廉も少なからず蓋し神代紀に採録す

る處の一書と稱する類の古傳ありて當時まで世に存したるを能直朝臣の編輯し置れたるなるべし其間まゝ疑はしき所あるは編成の時に誤りたるもあらんか何れにしても和學者流の我皇大御國は神の産み玉ひ神の造り成し玉へる神國なれば潮沫の凝成れる外國とは違ひあやにくゝ恠しく奇しく神變不測の事ありとのみ云ふ荒誕とは餘ほど見處ありて面白き書なり此篇は本書の鈔譯なれども是を版行して本書の大意を普ねく世に知らしめば他日かならず其全文に就て是を攻窮する者あるに至らば亦以て我邦の上代學をする者の楷梯と爲すに足れり義風君の是を鈔譯するも其意蓋し爰に在るなり

明治十年夏八月

上記編纂者大友能直朝臣略傳

- 大友從四位侍從藤原朝臣能直公は正二位大納言右近大將源賴朝公の庶子にして母は源氏の舊臣上野國波多野の住人利根郡司大友相模守經家の娘大友の局と稱す。
- 承安二壬辰正月三日誕生し幼名を一法師と稱す。
- 故ありて母の姉夫齋院次官藤原親能の養子となる。
- 成人するに及び容儀人に絶れ知謀他に異り十七歳左近將監に任じ從五位下に叙し能直と改む。
- 文治五年十八歳源義経誅伐の勅命を奉じ奥州に下向し國衡泰衡の兄弟に綸旨を傳達す。
- 同年右幕下頼朝奥州征伐のため出馬するに當り養父と共に從軍し奇功を立て凱旋す。
- 建久元年十九歳再び奥州征伐に向ふ。
- 建久三年三月年二十一歳後白河天皇御一周忌御法事のため鎌倉永福寺に千僧供養あり能直奉行たり。
- 同年五月頼朝富士野の卷狩上覽に供奉の折會我兄弟其父の仇工藤祐經を打ち取りたる擾亂に頼朝武裝し自ら之を鎮定せんとす能直之を諫止す。
- 年二十三侍所の權別當を兼任す。
- 年二十五豊後豊前の守護を賜り鎮西奉行を兼務す。
- 其仁政筑前筑後肥前肥後壹岐對馬に及びしが貞應二年癸未十一月十七日五十二歳にて薨去す。大野郡藤北の常忠寺に葬り法名を勝光寺殿能直大禪定門と云ふ。
- 能直性來勤王之志に富み世代の變遷して上世の史實日を追ふて不明となり朝廷の威徳益々振はざるを嘆き上代文字にてウヘツフミを編纂す。
- 大分市南新地に能直公を祭れる神社あり參詣の人晝夜絶えずと云ふ。

上記鈔譯緒言

- ウヘツフミハ我大日本帝國上代ノ歴史ニシテ貞應二年(紀元千八百八十三年今ヲ距六百五十五年)從四位侍從大友左近將監藤原能直朝臣(朝臣ハ源賴朝卿ノ二男齋院次官藤原親能主ノ養子豊後國守護職)ノ編輯ナリ其體タルヤ上代文字ニシテ引用スル所ノ古書十五部序中ニ書目ヲ載セ本文ニ高千穂記ニ云出雲記ニ云新治記ニ云ナト記セリ蓋中尾關如スト雖トモ今存スルモノ別テ四十一冊トス
- ウヘツフミハ豊後國大野郡土師村宗倫氏(往昔大友氏ノ重臣)ノ秘藏ナリシカ或家ニ轉シ韋簡既ニ絶エ錯簡頗ル多キヲ近年同國大分郡大分町幸松葉枝尺磨寫シテ綴ヲ別ツト雖トモ其順次不序ヲ覺ユ然レトモ世ニ其書目ノ露レシハ之ヲ嚆矢トス
- 又一部同國海部郡臼杵町大友氏(能直朝臣ノ裔)秘藏セシヲ近頃正五位森下景瑞大人コレヲ磨寫爲サシメ幸松ノ寫本ト校合セム事ヲ謀リヲレリ
- ウヘツフミノ概略ハ。日本書紀。古事記。古語拾遺。舊事紀。風土記。等ニ神代ト云フ。上代ノ事跡甚タ明瞭ニシテ產葦草葦不合天皇ヨリ神武天皇ニ至ル合テ七十三代(本記闕本アリ七十三代ノ内十四代詳カナラス)ノ皇祖ヲ載セ其治世ノ沿革ヲ記セリ(七十三代ノ内二十六代ノ所在ハ詳ナリ則上記山陵實地考ニ記スルカ如シ)
- ウヘツフミ。ハ上代文字ヲ以テ書シ且古言多ケレハ或ハ其一二卷ヲ窺フ者モ往々文意ノ了解シ易カラサルニ倦テ全編ヲ通讀スル者指ヲ屈スルニ過ス然リ而テ終ニ其一二卷ヲ讀モノ多クハ因循拘泥シテ活歴史視スルモノ鮮矣ノミナラス却テ上代ノ神異測ルヘカラスト或ハ古事記傳ニ據リ其言語ノ解ヲ見テ足レリトシ徒ニ日本書紀ヲ讀テ一書ノ異說ニ限ヲ止メサルハ思ハサルノ甚シキニ非スヤ余コレヲ嗟嘆スルヤ久シ故ニ不文ヲ愧ス其記中ノ大意ヲ譯シ別テ三冊トシ號シテ上記鈔譯ト云フ。
- 此鈔譯。在來ノ國書ノ體ニ拘ラス原書ノ大意ヲ譯ス譬ヘハ。アマツカミ。ヲ皇祖。ト記シ。イザナギノミコト。ヲ。天皇ト記シ。スサノヲノミコトヲ。親王。又ハ官。ト稱シ。

アメノナガタヲ。公田。トシ何々ノ。カミ。ヲ。守。令。頭。正。等ノ字ニ譯スルハ童蒙ノ解シ易キヲ宗トシテ側ニ原語ヲ附シ又挿註ヲ以テ之ヲ辨明ス其挿註原書ニ就テ記スモノアリ又余カ一説ヲ述ルモノアリ相混スルナカレ

地名。人名。物名。等ノ稱ニ形假名字ヲ以テ記スモノハ譯シ難キノ原語アリ原語ニ非レハ其意ヲ得カタキアリ今試ニ之ヲ漢字ニ解センモ其當否果シテ如何ン又日本書紀。古事記等ノ神名文字ノ用格モ多クハ所謂萬葉書ニテ到底假名字ナレハナリ

原書ノ假名字遣ヒ古事記萬葉集杯ノ格ニ異ナル處尠ナカラス學者必ス疑ヲ入サルヲ得サルト雖トモ粗本記編輯ノ時代タルヤ碩學ノ大家ト云ヘキ定家隆ノ兩卿モ亦假名遣ニ於テ論ナキヲ得ス況ヤ能直朝臣ニオイテヲヤ今コレヲ改正スルト雖トモ原語ニ依ル時ハ殊更ニ改メサル處モアリ

書中地名ニ注目スル處アレハ日本書紀。古事記。古語拾遺。舊事紀。等ニ參考シテ之ヲ挿註ニ記シ又和名抄。並ニ國郡全圖及ヒ各國ノ小圖ニ據リ或ハ其國人ニ聞モノアリ其求メ得サルモノハ姑ク□ヲ附シテ漸次之ヲ補フヘシ又國名

ノ始テ出ルハ原語ヲ記シ即今ノ國名ヲ挿註ニ辨シ再出以下國所ノ詳ナルモノハ直ニ即今ノ國名ヲ記シテ側ニ原語ヲ附シ其詳ナラサルハ其數國ヲ略記シテ其原語ヲ附ス

此書ニ就テ其本記ノ大體ヲ知ラハ自カラ口碑舊跡ノ徵スヘキモノアリテ或ハ疑ヲ消スルコトアルヘシ但本記ヲ通讀セシテ其眞偽可否ノミヲ評論スル者アリ故ニ此書ヲ著シテ通讀ニ便ナラシム又近者別ニ考證ヲ編輯シテ其憑據ヲ確實明證スヘシ

此書其大意ヲ譯スルモノナレハ。人名。物品。教法。歌曲。祝詞。藥法。刑法。臣庶ノ系統。等略シテ載サルモノ尤モ多シコレ歴史ノ部ト稱スル所以ナリ其詳ナルヲ欲セハ原書ニ就テ了知スヘシ

宇内列國ノ史籍ヲ閱スルニ其上代必ス怪異アリテ其狀恰モ相類似セリコレ一ハ文獻ノ徵スヘキナリ二ハ其祖先ノ常人ニ非サルヲ示シテコレヲ尊敬セシムルノ方便トセシコト論ナシ則我日本上代ノ事跡ヲ窺フハ紀記ニ據ラサルヘカラスト雖トモ此書彼神異測ルヘカラサルコトヲ記シ又往々其說ニ就テ紛紜辨論スル者屈指スルニ遑ラサレトモ皆其惑ヲ惑ニ

傳ヘ甚シキハ空ヲ飛ヒ海ヲ歩シ禽獸ト言語スルノ類ヲ現事トスルナト枚擧スヘカラス然リ而テ其歴史ト教法ト相混スルヲ辨スルモノナク既ニ 天照皇太神モ甲ハ只皇祖トシテ尊敬シ乙ハ天日トシテ靈異ヲ語リ殆ト其跡著ヲ知ルアタハサルカ如シ然ルニ上記ハ中尾缺如スト雖モ其事跡ヲ地名ニ傳ヘ以テ徵トスルニ足モノアリ、尤書中神異測ラレサル處ナキニ非サレトモ彼幽冥ヲ說シモノニテ則本朝上古傳來ノ教法タル事亦論ナキナリ此書 日向方媛天皇 天照皇太神 蒼生ノ家屋食物衣裳ヲ製セシメ撫育親愛ノ厚キ與ニ天日ニ比シテ猶餘リアルカ如ク廣大ノ德澤始テ明瞭詳著ナリ仰カサルヘカラス又無窮ノ鴻基由來スル所以ノモノ特ニ觀ルヘキアリ抑藩事紀日本書紀共ニ□邇々杵天皇日向國ニ遷都以降 神武天皇大和國ニ遷都ノ頃迄ヲ一百七十九萬二千四百七十餘歲ナリト 天皇ノ大詔ヲ載タリ而テ其聖代說ニ二三嗣即神異測ルヘカラスト稱シテ或ハ敬シテ遠サタルカ如ク又ハ神代ノ神ノ字ニ拘泥シテ神變怪異ヲ附會ス然リ而テ神武天皇遷都ノ時ヨリ俄ニ人世ト稱シ今世ノ人事ニ異ナラストス恰モ夜半ニ旭日ヲ仰クカ如キハ殆ト疑ヒヲ入サルヲ

得ス而テ其神代ノ人情歌詞地名等ヲ回顧シテ論辨スルモノヲ聞ス此ヲ指テ惑ト云サルヲ得サルナリ蓋シ文獻ノ徵スヘキヲ得サレハ又止事ヲ得サルニ出ル敷書中選カ其治世ヲ載ルニ長ハ三百餘歲短ハ七年ナリ豈疑ヲ入ル處アランヤ又神武天皇大和國遷都ノ條ニ於テ諸本皆征伐ノ行幸ナリト雖モ本記ハ然ラス其年飢饉ノ故ヲ以テ天子巡幸皇族巡撫兆庶ヲ賑恤ス偶賊太軌ヲ謀ル。皇太子五瀬尊賊ノ流矢ニ中テ薨ス事不意ニ起レハナリ征伐ノ議定リテ。第二皇子稻飯尊第四皇子三毛野入尊海軍ヲ以テ賊船ヲ追討シテ軍中ニ薨ス是ハ時ノ皇上產葺草葺不合七十一代天皇天照國照彥百日白杵尊ノ詔命ヲ重スルノ厚キニ出ル事ハ本文ニ詳明ナリ眞ニ此篇ニ到テハ切齒流涕セサルヲ得ス讀者亦信セスンハアルヘカラス此ニ由テ之ヲ觀レハ蓋シ上代ト雖モ測ル可ラサルモノニハ非ス故ニ此書ハ其大意ヲ譯シテ本文トシ挿註ニ余カ所見ノ私說ヲ述ルモノナレハ看客幸ニ彼神變怪異ノ舊說ト大差スルヲ怪ム勿ント云爾

明治十年一月十七日

挿註省略ニ就テノ辭

右緒言ニ挿註云々トアルモ本書ハ一日モ早ク讀者各位ノ熱望ニ對ヘ刊行スベキモノナルニ右挿註ヲ加フル時ハ本誌ニ全文ヲ掲載スルニ四ヶ月ニテ終ルベキモノノハ八ヶ月ヲ要スルノミナラズ費用及手數ニ於テモ倍加スルカ故ニ定價亦倍加スベク且ツ此際本文ノミヲ刊行スルコトノ良策ナルヲ信ジ右挿註ヲ全部省略セリ各位之ヲ諒セヨ

發行者誌

上記引用書目

- 高千穂ノ大宮司ノ傳書
- 同國主元雄カ傳書
- 常陸國新治郡富田某カ家記
- 以上三部ヲ原本ト云フ
- 出雲國造上世記
- 常陸國鹿島國造文
- 伊豆加茂三島ノ傳書
- 尾張中島逆手記
- 伊勢度會文
- 攝津住吉大餘坐記
- 肥後八代縣文
- 阿波田村記

- 筑前後老家文
- 豊前後老家文
- 薩摩霧島記
- 越白山舟人文

以上十二部總計十五部ナリ○日本書記ニ一書曰云々トハ此類ナルコト論ナシ而テ書記ニ載ル所凡十部ニ過ス今此書目ニ由テ之ヲ觀ルニ其地方皆上代ヨリ輻輳ノ地ニシテ部落セシコト亦論ナシ然レハ結繩ト云ヒ符徵ト云フ文字開ケテ以來傳記ノアルヘキモ亦思フヘキナリ然リ而テ本記ノ編輯舊事紀ニ後ル、六百一年古事記ニ後ル、五百十一年日本書記ニ後ル、五百三年古語拾遺ニ後ル、四百十七年ナリ而テ本記中數字並一^{カミコト}等ノ字ハ越文ニ依テ記ス由ヲ序末ニ載タリ故ニ各部落ノ文字一體ナラサリシコト亦明カナリ

大日本帝國上代總稱

豊地ガ原ノ中津國

豊葦原ノ千秋ノ長五百秋ノ瑞穂ノ國

國名

愛媛	飯依	大食	建依	白	豊	速	奇
媛ノ	依彦	作媛	依別	日別	日別	日別	日根
國(伊)	國(讚)	國(阿)	國(土)	國(筑)	國(豊)	國(肥)	國(日向)
豫)	岐)	波)	佐)	筑後)	豊後)	肥後)	大隅)

建^チ日^ヒ別^ワノ國^{クニ}（薩^{サツ}摩^マ）
 天^{テン}ノ一^{ヒト}柱^{シラ}ノ國^{クニ}（壹^{イツ}岐^キ）
 天^{テン}ノ挾^{キス}手^テ依^ヨノ國^{クニ}（對^{タイ}馬^マ）
 天^{テン}ノ押^{オシ}古^コ呂^ロ別^ワノ國^{クニ}（隱^{イン}岐^キ）
 二^ニ兒^コ島^{シマ}ノ國^{クニ}（佐^サ渡^{ワタ}）
 秋^{アキ}津^ツ根^ネ別^ワノ國^{クニ}（大^{ダイ}和^ワ河^カ内^{ナイ}山^{サン}城^{シヨウ}）
 草^{クサ}木^キ根^ネ別^ワノ國^{クニ}（攝^{セツ}津^ツ和^ワ泉^{セン}紀^キ伊^イ）
 淡^{タン}海^{カイ}根^ネ別^ワノ國^{クニ}（近^{キン}江^{カウ}美^{メイ}濃^{ノウ}）
 伊^イ勢^{セイ}津^ツ媛^ヱノ國^{クニ}（伊^イ勢^{セイ}志^シ摩^マ尾^ヱ張^{カウ}）
 遠^{エン}津^ツ海^{カイ}別^ワノ國^{クニ}（遠^{エン}江^{カウ}甲^{カウ}斐^{ヘイ}三^{サン}河^{カウ}駿^{セン}河^{カウ}伊^イ豆^{トウ}）
 武^ブ藏^{サウ}津^ツ海^{カイ}別^ワノ國^{クニ}（武^ブ藏^{サウ}相^{サウ}模^モ安^{アン}房^{ホウ}）
 吉^{キチ}道^{ダウ}路^ロ彦^{ヒコ}ノ國^{クニ}（上^{ジョウ}總^{ソウ}下^ゲ總^{ソウ}常^{ジョウ}陸^{リク}）
 狹^{キヤク}依^イ信^{シン}濃^{ノウ}彦^{ヒコ}ノ國^{クニ}（飛^{ヘイ}彈^{タン}信^{シン}濃^{ノウ}）
 野^ノ道^{ダウ}路^ロ彦^{ヒコ}ノ國^{クニ}（上^{ジョウ}野^ノ下^ゲ野^ノ）

島名

道^{ダウ}路^ロ奥^{オク}別^ワノ國^{クニ}（磐^{ハン}城^{シヨウ}岩^{ガク}代^{ダイ}陸^{リク}前^{ゼン}陸^{リク}中^{チュウ}陸^{リク}奥^{オク}羽^ウ前^{ゼン}羽^ウ後^ゴ）
 越^{エツ}根^ネ別^ワノ國^{クニ}（越^{エツ}前^{ゼン}越^{エツ}中^{チュウ}越^{エツ}後^ゴ加^カ賀^カ能^ネ登^{トウ}若^{ニョク}狹^{キヤク}）
 丹^{タン}波^ハ別^ワノ國^{クニ}（丹^{タン}波^ハ丹^{タン}後^ゴ但^{タン}馬^マ）
 出^{シュツ}雲^{ウン}別^ワノ國^{クニ}（出^{シュツ}雲^{ウン}石^{シヨク}見^{ケン}因^{イン}幡^{ハン}伯^{ハク}耆^キ）
 穴^{アナ}門^{メン}根^ネ別^ワノ國^{クニ}（長^{ジョウ}門^{メン}周^{シュウ}防^{ホウ}安^{アン}藝^イ）
 吉^{キチ}備^ヒ津^ツ根^ネ別^ワノ國^{クニ}（備^ヒ前^{ゼン}備^ヒ中^{チュウ}備^ヒ後^ゴ美^{メイ}作^{サク}播^{ハク}磨^モ）
 阿^ア波^ハ路^ロノ穗^ホノ早^{サウ}別^ワノ島^{シマ}（淡^{タン}路^ロ國^{クニ}）
 大^{ダイ}ス^スデ^デ媛^ヱノ島^{シマ}（讚^{サン}岐^キノ小^コ豆^{トウ}島^{シマ}）
 建^{ケン}日^ヒ方^{カウ}別^ワノ島^{シマ}（備^ヒ前^{ゼン}ノ兒^ニ島^{シマ}）
 大^{ダイ}タ^タマル^{マル}別^ワノ島^{シマ}（周^{シュウ}防^{ホウ}ノ大^{ダイ}島^{シマ}）
 天^{テン}ノヲ^ヲシ^シヲ^ヲノ島^{シマ}（陸^{リク}前^{ゼン}ノチ^チカ^カノ島^{シマ}）
 天^{テン}ノ一^{ヒト}根^ネノ島^{シマ}（豐^{ジョウ}後^ゴノ媛^ヱ島^{シマ}）

上代全國之圖

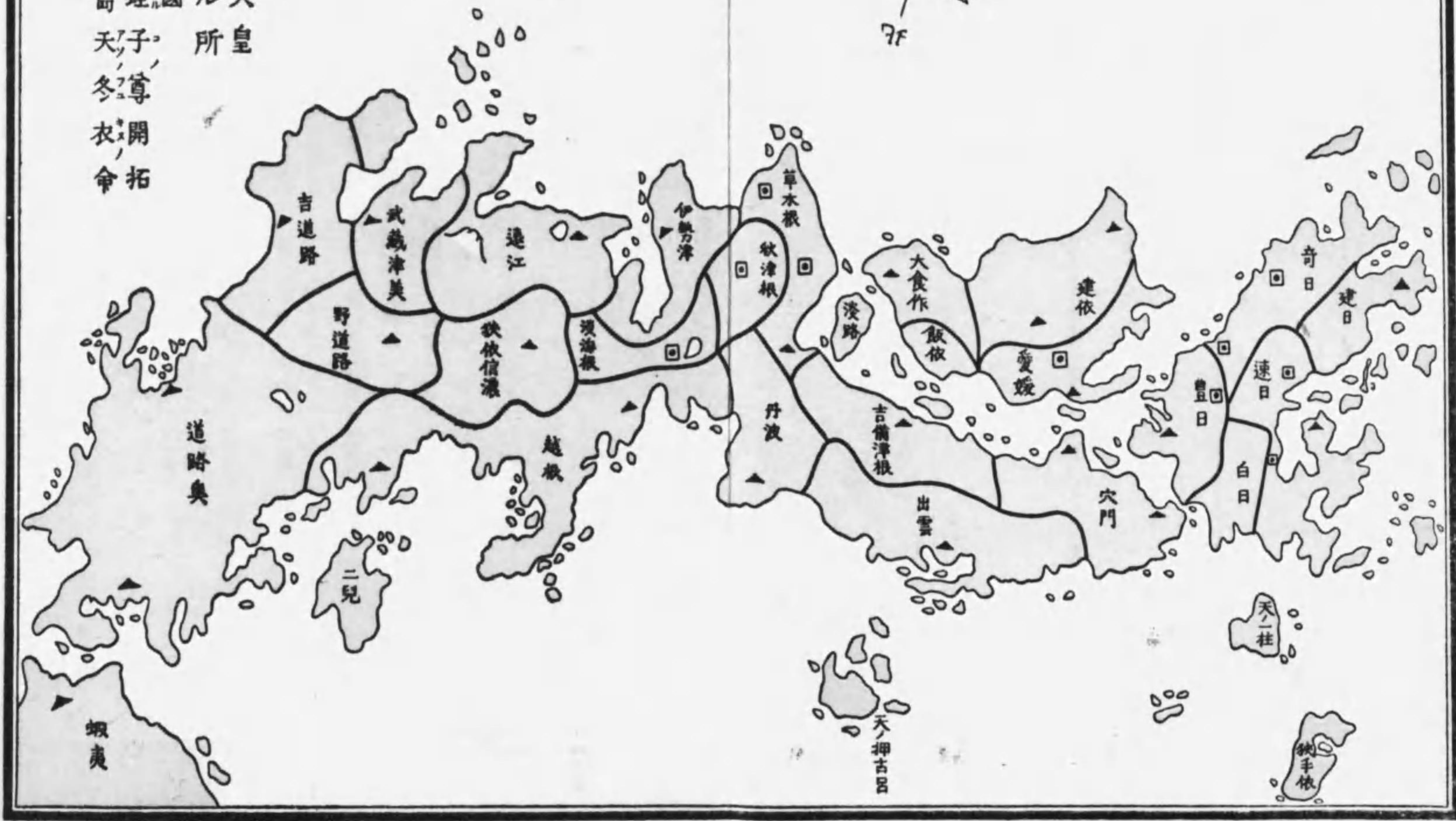
天ノフタヤノ島(肥前ノ天草)

以上其大概ナリ此外蝦夷琉球朝鮮小笠原島等ノコト本文ニ詳ナリ而テ其國境即今ノ國名ヲ挿註スルモ其大體ニシテ一二郡ノ錯雜スル所ハ最モ多シ本文中挿註ニコレヲ辨ス

豐原之千五秋瑞之全
葦秋長百之總國圖



○ ○ ○
伊 巡 二 蝦 狹 開
非 幸 十 夷 狹 開
諾 ス 八 國 手 拓
天 ル 國 蛭 依 命
皇 所 子 島 天
冬 尊 冬 衣 命
拓 拓 拓 拓 拓



上代全國之圖

- 圖中◻印ヲ附スルハ當時ノ帝都タリシ所ナリ ▲印ハ其大部落ノ土地ナリ
- 饒々天皇ノ御宇國境ヲ定ム。奇日豊日ヲ大宮ノ本國。白日速日建日ヲ本代國ト稱ス
- 產葺草葺不合十五代天皇ノ八年新羅ノ賊對馬ニ來寇ス擊テ之ヲ走ラセ追テ本國ヲ征ス三韓悉ク降ル
- 同三十八代天皇ノ御宇大土國崎命ヲ長官ニ任シテ東洋ノ一島(名ヲ詳ニセス今ノ小笠原島ナルヘシ)ヲ開拓ス
- 四十三代天皇ノ御宇沫諾國明命ヲ長官ニ任シテフタナギ島(今ノ琉流球ナリ)ヲ開拓ス

上記鈔譯 歴史部 第一

原輯 從四位大友能直
 閱 正五位森下景瑞
 鈔譯 大分縣士族吉良義風

○第一 綴

開闢ノ始メ。天之御中主尊ヨリ伊弉諾尊ニ至ル國家修理固成功勞アルノ神明凡テ三十四神
 皇祖。伊弉諾天皇ニ斧鉞ヲ授ケテ巡幸セシム。撫育親愛スル所凡二十八國
 諸皇子降誕。姪子尊ヲ流ス燼土尊降誕ニ當リ皇后疲勞甚シ天皇ニ告テ曰ク七日七夜吾ヲ見
 ル勿レト天皇怪テ其戸内ヲ窺フ

皇后愧テ。ヨモツ國ニ走ル天皇コレヲ皇祖ニ告ル皇祖慮テ天皇ヲ彼國ニ遣シテ迎ヘシム
 皇后。天皇ニ從テ還御ス時ニ雷ト云者醜女ヲ率テ追來ル之ヲ。ヨモツ平阪ニ退走セシム
 倍駕ノ臣ヲ。嚮導頭ト云フ爰ニ功アリ。ヨモツ平阪トハ出雲ノイウヤ阪。ナリ

○第二 綴

天皇。皇后共ニ日向ノ立鼻ノ小門ニ禊ス

伊弉諾天皇巡業

皇后ヨモツ國ニ走ル

皇后還御

天皇皇后共ニ禊ヲ行フ

天照天皇降臨

醫師頭ヲ置

皇族ノ位置

教正ヲ置

語學ヲ授ク

噴火山検査

水理

木種ヲ蒔

刑法

天皇即位

天皇崩ス

皇后崩ス

天照日向方日女尊。降誕次ニ速進男尊

詔シテ。日向方媛尊ニ。天職ヲ譲リ。速進男尊ヲ。攝政ニ任ス

燿土尊大食作。古名ノ阿波門ノ鳴海息長產靈尊ハ建依ノ。スミノ小門水走產靈尊ハ愛媛ノ。

ヤノダノ小門埴山彦尊ハ白日ノ小門ニ禊ス

體體居命ヲ醫師頭ニ任ス

皇族ノ位置ヲ定ム

明魂命ヲ教正ニ任ス。大言教招命ヲ令テ百姓ニ語學ヲ教授セシム。燿土尊噴火山ヲ検査ス

○水走男尊水理ヲ検査ス

攝政親王。大山見命ニ命シテ木種ヲ蒔シム

親王。慈母ノ國ヲ守ラム事ヲ乞フ

天皇大禍津日尊ヲ斬ル。○毒虫猛獸ノ類ヲ殺サシム。○八十禍津日命ニ死ヲ賜ヒ。二十一凶徒

ヲ處刑ス

皇祖詔シテ天皇ヲ。天職ニ任ス

天皇崩ス。日若宮ニ葬ル

皇后崩ス出雲ノ。ビツノ山ノ嶺ニ葬ル

天照天皇治世

劍璽ノ盟約

食穗御身天皇降

臨

三王女筑前ニ到

ル

親王中津國ニ大

食作姫ヲ見ル

穀種ヲ撰ヒ雙蓋

ヲ起ス

農事ヲ勸ム

兼斧ヲ製ス

勸農頭ヲ置

田地開墾

天照天皇治世

親王參内シテ謁見ヲ乞ヒ。劍璽ノ盟約ヲ爲ス

天饒國饒天津日高日子正哉吾勝々速日天野食穗御身尊降誕コレヲ皇太子トス

三王女サキト山ニ到ル此處ヲ。ムナカタト云フ

親王ヲ令テ。豊地ガ原ノ中津國ニ大食作姫命ヲ見セシム。姫口ヨリ種々ノ穀物ヲ出シテ親

王ニ供ス親王其食ヲ汚穢トシテ姫ヲ傷ニテ復命ス。天皇怒テ曰ク汝ハ無頼ナリ相見ル

ヲ欲セスト一晝一夜言語ヲ交ヘス

天隅之大人命ヲ令テ大食姫ノ疵ヲ問シム則瘡タリ穀食物類十四種並ニ蠶アリ大人命。姫ヲ

率キ參内シチ拜ス。上大ニ悦ヒ。公田長ヲ定メ其種ヲ公島公田ニ蒔シム大ニ年アリ

是ヲ十四穀ト云フ

○第三 綴

大食作命ヲ令テ人民ノ命續ノ食物ノ耕作ヲ教ヘシム二命建日ノ贈ノ。クシフル嶽ニ公田ヲ

定メ。ケミノ嶽ニ公島ヲ定ム

詔シテ群臣ニ兼斧ヲ賜フ。○山津見頭八名ヲ令テ人民ノ私田ヲ開墾セシム。○水分命田

島ノ渠溝ヲ掌ル。○大食頭山見頭全國ニ農事ヲ勸ムマツ。白杵ヨリ始ム

漁獵ヲ始ム
牛馬ヲ獻ス
牧ヲ開ク
穀物收納ノ法
火焚ノ法
煮煎ノ法
鍋釜食ヲ造ル
井ヲ掘ル
臼杵ヲ製ス
魚網ヲ製ス
勸農漁獵ノ二頭
内膳正ヲ置
二種ノ酒ヲ醸ス
味噌ヲ醸ス

食魚捕頭ヲ定ム。○大海見松浦彦命ニ海魚ヲ捕シム。
香土平上彦命勅ヲ奉シテ牛馬ヲ獻ス又詔シテコレニ乗シム馬能走ル。上覽テ。ウマク走カ
モ。ト曰フ故ニ。ウマト云フ又牛ニ乗ル。上。道行ハ憂ト曰フ故ニ。ウシト云フ然レト
モ牛ハ農事ニ用キテ便ナルヘシト越根別ノ。シラカヘニ牛馬ノ牧ヲ開ク
倉納頭命ヲ令テ穀物ノ收納法ヲ百姓ニ教ヘシム此時ヨリ倭ヲ作ル
火之燂鉞命ヲ令テ火焚法ヲ全國ニ教ヘシム
火之燒玉命ヲ令テ食物ノ煮煎法ヲ教ヘシム
天野服男命ヲ令テ土ヲ以テ鍋釜及ヒ食器ノ類ヲ造ラシメ其法ヲ全國ニ傳フ
水出彦命ヲ令テ井ヲ堀ノ法ヲ教ヘシム
甘美金持命曰杵ヲ製シテ米粟ヲ精ルノ法ヲ發明ス天皇大ニ賞スコレヲ全國ニ傳フ
海鰭求命ヲ令テ網ヲ製シテ海魚ヲ漁ノ法ヲ始メシム
二十八臣ヲ豐穀頭ト云ヒ。八臣ヲ豐添魚頭ト云ヒ。十四臣ヲ豐食正ト云フ
生津彦根命ヲ令テ。サヨリ信濃ニ酒ヲ造ラシム。米ヨリ醸スヲ。マサカ。ト云ヒ麥ヨリ醸
スヲ。ミサカ。ト云フ
熊野奇日命ヲ令テ穴門ニ味噌ヲ醸サシム

全國人民ノ家屋
ヲ作ラシム
言語二十一種ノ
差別

天皇大山見命ニ詔シテ曰ク。今人民ノ多ク穴居ス朕甚タコレヲ憂フ汝指揮シテ其家屋ヲ作
ラシメヨト。命ヲ拜シ八子ヲシテ家作ノ事ヲ掌ラシム草木根國ヨリ始メ全國ヲ巡行シテ
天ノ一柱國ニ終ル一年未滿其功ヲ奏ス
萬言伊吹命ヲ令テ大和ノ。イカルノ三岳ニ於テ。言語ノ差別二十一種ヲ諸國ノ長官ニ傳ヘ
テ人民ニ教授セシム
言語二十一種ノ差別
天ノ言語ノ差別 國ノ言語ノ差別
アイウエヲ差別 テニウホ差別
ヲハレテヌ差別 去言差別
惡言差別 和言差別
荒言差別 延言差別
縮言差別 言ノ音差別
言ノ種差別 言ノ別差別
言ノ緒差別 言ノ極差別
言ノ添差別 眞言差別

無言差別

借葉差別

顯露差別

天津明魂命ヲ。教正ニ任ス。○天津體骸居之男命外九名ヲ。醫師頭ニ任ス

先帝天下ヲ巡撫シ今上仁政ヲ布ク穀物尤モ豊穰萬民昇平ヲ唱フ

十四頭ヲ令テ。養蠶。機織。裁縫。ノ法ヲ全國ニ傳ヘシム。○天津蘆葦別命野道路ニ廣葉木

ヲ植サセ蠶ニ食スヲ以テ。桑木ト號シ繭ヲ口ニ含テ糸ヲ製ス。○天野アカヒ彦命ハ阿波津

國ニ麻ト。楮トヲ植シ所ヲ。カヂナガト云フ皮ヲ剝テ糸ニ製ス。○天津瀧彦命ハ豊日別國

ニ草綿ト。葛オチ。トヲ植シ所ヲ綿田ト云ヒ。オチト云フ其綿ヲ執テ糸ニ績ク。○天野棚

機彦命大河山國ニ到リシ所ヲ。タナダト云ヒ綾ヲ織シ所ヲ。オリト云フ。○天野若建命ハ

長防藝國ニ。倭文ヲ織シ所ヲ。イシドト云フ。○天津千針命ハ出雲ニ男衣。女衣。著裳

褰。裳ヲ裁縫ス。○天津建依彦命ハ紀泉攝國ニ倭文ヲ織テ衣裳ヲ製ス爰ヨリ始メテ全國ニ

教ユ

親王驕傲公田ヲ妨害シ又新嘗祭ノ席ヲ汚シ又上。機殿ニ臨御シテ若姬命ニ神衣ヲ織シムル

ヲ窺ヒ。班駒皮ヲ戶外ニ投ス。若姬驚愕梭ヲ以テ傷キ終ニ死ス

天皇親王ノ所業ヲ惡テ相見事ヲ欲セスト直ニ。天之磐屋ニ幽居ス天下穩ナラス

群臣天之安ノ河原ニ會シテ。天皇ノ出御ヲ議ス八意思兼命議長タリ。天野兒屋命行事長官

タリ天野太玉命コレニ次グ。○石凝戸男女命ハ天安河ノ河上ニ墜石ヲ執リ。○金山彦命ハ天

香具山ニ銅ヲ採リ。○天津マウラ命ハ鐵ヲ圓鏡ニ面ヲ造ル甚タ小ニシテ群臣不良ト云フ又

八花形鏡ニ面ヲ造ル群臣コレヲ然リトス。○ク、ノチ命ハ。マナギヲ剝テ權ヲ作ル。○明立

御影命ハ日向ノ高千穂ニ鐵ヲ採テ折鈴五十鈴ヲ作ル。○天野糠戸命ハ道路奥國ノ白金ヲ採

テアヒトコ。イトコヲ作ル。○生津彦根命ハ長門ノ鐵ノ燒金ヲ以テ種々ノ劍矛ヲ作ル。○

天野白羽命ハ紀泉攝ノ。ヤタニ青幣ヲ作ル。○山雷之男命ハ香具山ニ櫛ヲ執テ玉串ヲ作

ル。○野土命ハ大野原ニ野小竹ヲ採テ玉串ヲ作ル。○天野奇明玉命ハ八尺ノ曲玉ヲ磨リ。○熊

野奇日命ハ丹波ノ竹ヲ以テ笛ヲ作ル。○伊豆之雄命ハ遠津海ノ大竹ヲ以テ。ホラ。ヲ作

ル。○衝立船戸命外二名ハ信濃ノク、チ山ニ三尋木ヲ切り愛媛山ニ五尋藤ヲ採テ大鼓ヲ

作ル。○天野香山命ハ天之鹿兒弓八張ヲ竝ヘテ琴ヲ製ス。○天野御鉾命ハ和文八十反ヲ織リ

○手置穗日命彦狹知命ハ瑞殿ヲ造營ス。○天野時置師命ハ御傘ヲ作ル。○天野御酒彦命ハ

膳ヲ捕ヘ。○沖津彦命外十一名ハ酒饌ヲ設ク

○第四綴

十四穀頭ハ各。穀物。野菜。海魚等ヲ献ス

大占ヲ行フ

磐屋戸ノ前ニ樂ヲ奏ス

天野兒屋命。天野太玉命ハ議事定テ。天香山ノ眞男マコトノ極ノ上枝ヲ採テ空貫ニ拔キ朱櫻ノ皮ヲ燒テ吉凶ヲトスルニ果シテ吉ヲ得タリ

天野兒屋命天香山ノ榊サカキヲ根堀ニシテ八尺曲玉。八手鏡。木綿キヌヲ附テ。太御幣フタミツケトナシ天野太玉命ニ持シメテ。太祝詞フタノコトヲ奏ス○天野手力男命ハ磐屋戸ノ脇ニ隱立ス○三王女。十三官女磐屋戸ノ左右ニ坐シ○皇族ハ左ノ新殿ニ坐シ○諸大臣ハ右ノ磐上ニ坐シ○官人ハ眞向ノ原ニ坐シテ樂ヲ奏ス

天野宇受女命ハ舞曲長トシテ舞媛八人ヲ率テ歌舞ス其粧ヒ甚タ優美ニシテ尤秘曲ヲ盡ス百官手ヲ拍テコレヲ賞ス

天皇其嘯樂ヲ怪ミ。磐屋戸ヲ細目ニ開ク。手力男命急ニ磐屋戸ヲ引開ク三王女。十三官女直ニ進テ御手ヲ執リ左右ニ從テ出御ナサシム兒屋。太王ノ二大臣七五三繩セリクノヲ後部ニ引テ。コレヨリ内ニナ入御マシト奏ス

新宮ニ遷御ス

天皇新宮ニ遷御ス。兒屋命紅ノ御幕ヲ掛回ラス三王女。十三官女又大宮之女命御前ニ伺候ス○天野磐屋戸別命御門ヲ守衛シ○大臣太玉大殿祝御門祭ヲ執行ス

進男尊ヲ處刑ス

群臣議シテ。進男尊ヲ處刑ス大臣兒屋其罪狀ヲ宣告ス。尊浪々長途霖雨ニ逢ヒ疲勞甚シ青草ヲ束ネ蓑笠トシテ諸守頭ニ宿ヲ乞フ宿ス者ナシ爰ニ於テ其非ヲ悔ヒ立地改心

進男尊改心シテ參内ス

天皇ニ謁見シテ罪ヲ謝セン事ヲ欲シ遂ニ參朝ス
進男尊參内ス宇受女命視テコレヲ奏ス詔シテ議長思兼命ニ其故ヲ問フ。議長奏シテ云ク親王ハ悔悟改心ト聞リ宜ク治世ヲ任スヘシ

進男親王ヲ元帥ニ任シテ凶賊ヲ征討ス

天皇進男尊ヲ召テ曰ク天下穩カナラス汝ヲ元帥ニ任スト親王拜謝シテ八王子並諸大將ヲ率テ日向ノ霧嶋嶽ニ到リテ軍議ス。

速日ノ。オソノ岳ニ凶賊アリ元帥宮令シテコレヲ征討ス相從フ皇族大臣總テ十七將就中。天野見屋命。天野太玉命。五十猛命。伊建外面命大ニ勳功アリ豊後ノ御寶岳ニ到ル國守響應スルニ。キシマ。ヲ以テス宮コレヲ賞ス此處ヲ。キシマノ里ト云フ又屯集セシ所ヲ由布ト云フ

除ヲ別テ四國ニ進ム

天野兒屋命以下五將ニ命シテ愛媛國ニ到ラシム諸將同國。クマツ山ニ陣ス建依別ノ。ソガミノ。タブチ。ヲ。カケヤ。トスル賊アリ官軍進テコレヲ拔ク

元帥宮豊後ヨリ長門ニ到ル國守。トミツニ新宮ヲ建。宮ヲ迎フ偶其親族大魚ヲ得タリ以テ響應セン事ヲ請フ。宮コレヲ見テ曰ク。食テ滋養ナルベシ先我ニ供セヨ。則之ヲ味噌汁ニ煮又鱈ニ調シテ進ム宮翫味シテ。大丈夫ノ漁ル奇ノ海魚カモ。ト賞ス故ニコヲ鯨ト云フ○丹波ニ賊アリト聞テ出雲ヲ過リ。日野川上ノ鳥上ニ足名椎。手名椎ヲ見テ奇稻田姫

清ノ宮ヲ作ル

稻田姫ヲ娶ル

ヲ娶リ謀テ賊ヲ斬ル時ニ三種ノ寶物ヲ得タリ奇玉ヲ。ヒレ。ト號シ。ホダキ。ノ如キヲヤツチノヒレ。ト號ス。ツムカリノタチ。ハ天之村雲ノ寶劍ナリ宮。天野太玉命ニ謂テ曰ク此所ニ來テ吾心清々シ故ニ宮ヲ造營セント欲スト。太玉命。五十猛命ニ謀リ。手置穗日命外六名ニ令シテ新宮ヲ造營ス此所ヲ。清ト云フ

天野太玉命以下議テ稻田媛命ヲ迎ヘ婚姻ノ式ヲ行フ親王歌ヲ作ル。太玉命和シテコレヲ賀ス

丹波ノ賊ヲ斬ル

元帥宮生津彦根命以下十將ヲ率キテ丹波ノ。サフノミタケニ到ル。アナホノ山ニ屯集スル者アリ二將ヲ遣シテ之ヲ問シム衆對テ吾輩ハ國內百姓ナリ。ヒカゲノチハラニ凶賊アリ其害ヲ蒙ル既ニ久シ即今官軍ノ進撃ヲ聞テ從軍セン事ヲ冀望ス。又麥ト。大豆ト粉ニシテ。タゴロヲ作り小豆ヲ。アモ。シテ。カチメ。ト爲シ以テ饗セントスト云フ。宮其喫テ。是ノ團子ハ類喫ニ味美。ト曰フ故ニ。タゴノ里ト云フ進テ其賊ヲ斬ル天野太玉命先陣タリ建津主身命。建雷命大ニ勳功アリ其巨魁ヲ斬テ殘黨ヲ免シ百姓ノ籍ニ加フ

○第五級

元帥宮攝津國ニ到ル時ニ天野兒屋命以下五將ハ。愛ノ與島ヲ平ケテ。攝海ニ會ス愛ニ一隊ノ大將經津主命元帥宮ニ告テ曰ク我族ノ斥候云フ紀伊國。飛信國大和國ニ凶賊アリト

元帥宮復命

宮令シテ。天津彦根命以下五將ニ紀伊ノ賊ヲ斬シム此所ヲ。カタナト云ヒ。天津奇日命以下四將ニ飛信ノ賊ヲ斬シム此所ヲ。アシドリト云ヒ。生津彦根命以下五將ニ大和ノ賊ヲ斬ラシム此所ヲ。斑鳩ノ。ガマクチ。ト云フ○三越加能若ヲ經テ磐岩三陸兩羽ニ到リ急ニ伊勢津國ニ還ル國守。葛木綿ノ冠ヲ呈ス始テコレヲ。着スル所ヲ。キツト云フ○野道路國ニ到ル國守繭ノ糸木綿ヲ以テ襲トシテ呈ス此所ヲ。スキト云フ○武藏津海國ニ到ル國守玉麥ヲ以テ。スダ。トシテ饗ス此所ヲ隅田ト云フ○越ノ賊ヲ。マクハギノ岳ノ熱湯ニ投シテ殺ス此所ヲ。ニエヤト云フ○陸羽ノ賊ヲ。イヲシリノ山ニ捕ヘテ海中ニ流ス此所ヲ。ヤラヒゼト云フ凱歌シテ日向ニ還ル

元帥宮諸大將參朝シテ復命ス皇族大臣參内シテコレヲ賀ス。宮佩劍ヲ解テ奏シテ曰ク出雲ニ賊ヲ斬テコレヲ獲タリ帶シテ凶賊ヲ伐ニ屢瑞雲ヲ觀ル私ニ帶スルヲ憚ル以テ之ヲ獻ス勅ニ曰ク。是ハ天ノ香山ノ忼怡鐵ヲ以テ天津マウラニ作ラシメシ叢雲劍ニテ朕磐屋ニ籠ラムトスル時近江ノ伊吹ニ遺失シ、劍ナリ

攝政親王出雲ニ還リ足名稚。手名稚ヲ召テ汝等吾子ノ宮ノ長者タレト稻田宮主清八耳命ト名ヲ賜フ

奇稻田媛命。清之湯山主實成早守日高彦八島知之臣王ヲ産シム

諸道ニ勳農頭ヲ置ク

攝政親王諸道ヲ巡視ス

姪子命北海道ヲ開拓ス

親王田島ヲ定メ自身耕作シテ全國ノ人民ヲ按撫セント。東國ニ道之長路男命。西國ニ速玉之男命。北海邊國ニ伊豆之尾羽張命以下八名。南海邊國ニ阿波波限命以下六名ヲ置テ保護セシム

親王諸國巡視シテ日向ニ到ル百姓公租ヲ呈ス親王悅テ歌ヲ作ル此處ヲ。高千穂ト云フ。筑前後ニ移ル國守海岸ニ小石ヲ疊テ波除トシ其上ニ新殿ヲ建テ漁獵ヲ催シテ遊覽ニ供ス親王喜テ歌ヲ作ル此處ヲ筑石國。松浦國トモ云フ○長門ニ轉ス百姓迎ヘテ牛馬ニ乗セテ送ル○遠江ニ到ル國守圓餅ヲ以テ饗ス賞シテ曰ク。是ハ腹保ノ物カモ。ト故ニ餅ト云フ○越ニ到リ國守ニ米穀ノ多少ヲ問フ對テ多ナリト云フ此所ヲ。サハ郡ト云フ香山戸命外二名ニ命シテ酒ヲ釀サシメ百姓ノ疾病ヲ治スルノ。ミケツ。トナサシム之ヲ。ミキ。ト云ヒ此處ヲ。キヨシノ里ト云フ○蝦夷國ニ渡ル海中天之岩楠船ニ乗テ釣ヲ垂ル老翁アリ親王其名ヲ問フ答テ曰ク。吾ハ汝ノ家兄姪子尊ナリ此國ヲ作り固メント欲ス吾愛ニ赤海魚ヲ得タリト昆布ヲ添テ饗ス親王之ヲ賞シテ。味ヒ妙ナリ。ト云フ故ニコレヲ鯛ト云フ此處ヲ蝦夷ノ。アヘト云フ○陸羽ニ還ル國守駒ヲ率テ迎フ此所ヲ。駒ドト云フ○土佐ニ到ル國守松ノ綠葉ヲ遊拔ニシテ辛酒ヲ釀テ饗ス此所ヲ。カラシノムレト云フ○清宮ニ還リ天下ノ政ヲ定メテ八島知之臣王ニ任ス

親王薨ス

親王薨ス。クマナスノ岳ニ葬ル

八島知之臣王。木花散姫命ニ婚シテ。フハノモチクヌヌノ命ヲ産ム
王曰ク百姓寒暑ヲ凌ク爲ニ疾病ニ罹ルヲ恐ル故ニ。サセノ木。ノ小枝ヲ簪ニ挿テ放歌踊躍セヨコレヲ暑祓ヒ寒祓ヒト云フ諸國コレヲ學フ

王天下ヲ巡視シ朝旨ヲ奉シテ國政ヲ定ム
陸羽ヨリ牛數十頭越ヨリ馬數十頭ヲ進ム

薩摩ニ賊アリ能射ル少男女ヲ殺シテ其肉ヲ食フト國守ノ使節到ル王。突鉞徹命ニ令シテ。ケシノ島ニコレヲ斬セ其屍ヲ海ニ流ス凝テ島トナル。タナ島ト云フ

出雲國ヲ開墾ス。シロキノ岬ヲ堀テ其石土ヲ船ニ積テ杵築岬ニ移スコレヲ狹姫山ト云フ其引網ハ。ナミ濱トナル又。キト岬ヲ佐田ニ移シ又北門隱岐ヲ闡見ニ移シ又。コシヨリ。ミミノ岬ニ移ス引網ハヨミ島ホカミノ岳ナリ

王武藏國ノ。湯布ニ到ル國守大鳥ヲ射テ饗ス王賞シテ。能射ツル。ト云フ故ニコレヲ鶴ト云フ○豊後ノ。四極海ニ到ル由布岳ニ凶賊アリ押別。石阪ノ二將ヲ先鋒トシテ之ヲ攻ントス賊不意ニ起ル我兵傷クモノアリ二將謀テ其巢窟ヲ燒キ盡テコレヲ平ククスヌ命。日川姫命ニ婚シテ。深淵之水破花命ヲ産ム

攝政王諸道ヲ巡視ス

人民ヲ移シテ農
事ヲ勸ム
天下ノ六所ニ牧
ヲ開ク

八雲瑞臣命職ヲ
繼ク

青烟早草彦命ヲ勸農頭ニ任シ諸國ヲ巡視セシム○五日ノ百姓ヲ三越加能若ニ移シ磐岩三陸
二羽ノ百姓ヲ上下總常ニ移シ同國ヨリ武相房ニ移シ大河内ヨリ遠甲三駮豆ニ紀泉攝ヨリ
飛信ニ移シテ農事ヲ勸ム○陸奥武藏丹波土佐肥後長門ニ牛馬ノ牧ヲ開テ諸國ニ及ス
飛信ノ國守國內ノ樵夫偶海ニ出テ釣ルニ奇魚ヲ得タリ故ニ齋來テ進ムト云フ王賞シテ。サ
ヨリ越ル甘美海魚カモ。ト云フ故ニ。サヨリコシナト云フ
水破花命。天野ツトヘチネ姫命ニ婚シテ。八東瑞臣津主身命ヲ産ム
津主身命。フテミトキ姫命ニ婚シテ。天野冬衣命ヲ産ム
紀泉攝ノ國守大輕彦謀反ス將軍八雲立日野命以下諸將ヲ率テ吉備津根ノ小濱ヨリ海路ヲ經
テ進ム賊。水分山ニ據テ堅ク防ク將軍。高祖國照大神ニ此賊ヲ亡サン事ヲ祈ル非時ニ大
雪降ル賊山頂ヨリ下リテ岩窟ニ隠ル將軍二將ニ一策ヲ授ケテ水分山ノ後ノ。サミノ谷ノ
峽ニ伏兵ヲ設ク賊遁レ到ルニ將令ヲ傳テ走ルヲ斬ル甚急ナリ巨魁又山上ニ走ル我兵進擊
ス巨魁終ニ山ノ前路ニ走ル。八雲立日野命ハ本陣ヨリコレヲ見テ單騎策ヲ舉ケ賊將大輕
彦ヲ捕ヘテ大地ニ投シテ殺ス殘黨悉ク平ク
長門ノ國守詔フ我國ニ丈餘ノ磐アリ能言語ス大臣瑞臣命到リテ見ルニ尤奇恠ナリ。天戸命
ニ令シテ其磐ヲ打碎カシム此所ヲ石見ト云フ

大臣冬衣命諸國
ヲ巡視ス

對馬開拓

○第六 綴

天野冬衣命。折國若姫命ニ婚シテ。大汝命ヲ産ム
大臣冬衣命磐岩三陸二羽ニ至ル土人餅ニ茅ヲ卷蒸テ進ム大臣コレヲ賞ス此處ヲ茅卷里ト云
フ○三越加能若ニ至ル國守清酒ヲ進ム賞シテ其法ヲ全國ニ傳ヘシム○天之狹手依鳥ニ航
シテ長門ノ牧ヨリ牛馬ヲ移シ牧ヲ開カシム○筑前後ニ到リ越ノ清酒ノ法ヲ傳ヘテコレヲ
釀サシム○豊後ノ由布ニ至ル國主。キシメヲ以テ饗スコレヨリ清宮ニ還ル
曩ニ大臣。八十禍津日命ノ裔。フクナ女ニ通シテ。八十上命ヲ生ム大臣正室ヲ迎フニ及ン
テ。フクナ女大ニ嫉ミ。八十上命ヲ柱ニ括テ其身ハ川ニ投シテ死ス大臣ノ室曰ク。大臣
ノ子ハ妾カ兒ナリ。ト稱シテ其八十上命ヲ養育スル甚タ厚シ
八十上命因幡ノ八上姫ニ通セント欲シテ大汝命ニ袋ヲ負セテユク。途上兔ト云者裸ニシテ
泣ニ逢フ八十上コレヲ欺ク。大汝教ルニ信ヲ以テス兔起テ袋ヲ負ヒ大汝ニ隨行ス。八十
上。八上姫ヲ問フ從ハスシテ大汝ニ見ントス八十上怒テ大汝ヲ殺サント謀リ伯耆ノ。タ
マ山ニ狩セント欺キ大石ヲ燒テ投ス大汝傷ク討出貝姫。蛤貝姫命之ヲ治療ス又欺テ山中ニ
入大木ヲ拆テ其間ニ狹ム大汝又傷ク
冬衣命。大汝命ニ謂テ曰ク。汝爰ニ在ハ終ニ八十上ニ殺サルヘシ故ニ紀伊國ノ大屋彦命ノ

許ニ至ルヘシト八十上追テ。鹿兒矢刺時ニ大汝木蔭ヲ通レテ紀伊國ニ至ル大屋彦命慮テ又。熊ナスノ嶽ノ國照大神ノ所ニ至ラシム大神見テ葦原醜男ト字ス○大神鎗矢ヲ曠原ニ放チ大汝ニコレヲ求メシメテ其野ニ放火ス大汝穴ニ遁レテ其矢ヲ捧ク又大神髮中ノ虱ヲ採シメ又大汝ノ眠ヲ窺ヒ其髮ヲ執テ椽ニ結ヒ戶外ニ大石ヲ遮テ室中ニ鳴鎗矢ヲ射入ル大汝覺テ其髮ヲ切斷シ其戸ヲ蹶破テ出ツ大神大ニ之ヲ賞歎ス○大神。大汝命ニ謂テ曰ク我女須勢理姬命ヲ汝ノ室ニ爲ヘシト婚禮ノ式ヲ行ヒ授ルニ。乘。鍬。劍。弓矢。琴ヲ以テシ天下ノ兇徒ヲ平ケ人民ヲ按撫シテ太政ヲ奉還スヘシト説諭ス大汝拜謝シテ。スセリ姫ト出雲ニ歸リ。宇迦山本ニ居ル○八十上命驕奢甚シク大汝命ノ還ルヲ忌テ殺サンコトヲ謀リ欺テ。ヒス川ニ游獵シ無足橋ヲ架シテ大汝ヲ水中ニ墮ス大汝水中ヨリ腹心ノ士ヲ呼フ衆至リ八十上ヲ捕ヘムトス八十上走テ山ニ遁レ兇徒ヲシテ亂射ス其矢雨ノ如シ爰ニ於テ大汝命兵器ヲ帶シテ其徒ヲ撃チ終ニ八十上ヲ捕ヘテ父君ニ其罪狀ヲ上告ス

大臣天野冬衣命。大汝命ニ謂テ曰ク汝大祖大神ノ心傳ヲ守リ國家ヲ保護スヘシト其職ヲ讓ル

大臣大汝命ノ室スセリ姫命。味鋌高彦根命ヲ産ム此外大臣ノ子百八十名ト稱ス○味鋌高彦根命壯ニ及ヒテ言語スルヲ得ス。井川ノ阪ノ上ニ藥水ヲ得テ始テ言語ス室。天野御炊姫

命カムナヒノ西ノ窟ヲ産屋トシテ。タギツ彦命ヲ産ム大臣大汝命越國ノ沼川姫ニ會シテ歌ヲ作ル○出雲ヨリ大和ニ至ル啓行ノ際馬ノ鞍ニ手ヲ掛テ歌ヲ作ル室スセリ姫盃ヲ揚テ之ヲ和シ後筏ニ乗テ海ニ浮フ肥後ニ賊起ル大臣大汝命。高彦根命ヲ令テ其景況ヲ窺ハシム。ククツ岳ニ據テ人民ヲ妨害ス

大臣出雲ノ伊狭々小汀ニ漂漂杭サス時。少名彦命天之カガスノ船ニ乗テ來ルニ逢ヒ兄弟ノ約ヲナシ人民ヲ保護シ開拓ノ業ヲ共ニ掌ル

大汝。少名彦ノ二大將。味鋌高彦根命以下十將ヲ率テ肥後ノ菊池里ニ至リテ賊ヲ討ントス賊堅ク拒ム少名彦命奇計ヲ以テ其巢窟ヲ燒テコレヲ平ク此所ヲ。サガナト云フ

伊弉諾天皇ノ裔。熊野神呂岐奇御食野命。大汝命ニ乘鍬ヲ授テ開拓頭ト爲ス

天皇大汝少名彦命ノ二大臣ヲ召テ開墾ハ牧民上至重ノ業ナリ汝等電勉從事セヨト勅諭ス二大臣拜シテ赴任ス○肥後ノ賊徒四百五十餘人ヲ開墾或ハ藥堀又ハ牧童等ニ懲役ス

二大臣參朝シテ地方ノ事情一ナラサルヲ奏シテ守頭ノ分課ヲ乞フ勅シテ御年命。若年命ヲ殺種頭ニ冲津命ヲ竈頭ニ。庭高津日命外二名ヲ煮煎頭ニ。香山戸命外二名ヲ造酒頭ニ。

稻撰彦命外二名ヲ味噌頭ニ。事勝國勝長狹命ヲ鹽燒頭ニ。若山咋命ヲ田作頭ニ。水求命

ヲ田水頭ニ。夏之女命ヲ麥秋頭ニ。秋姬命ヲ米穀頭ニ。括年命ヲ早稻頭ニ。括木若室綱
捻命ヲ遲稻頭ニ任ス

日月並十一星ヲ祭テ太平豊穰ヲ祈ル
天皇御衣ヲ二大臣ノ室ニ賜フ

○第七 綴

大臣大汝命疾病アリ大臣少名彦命。大分速見ノ温泉ヲ汲テ浴セシム則瘥タリ大汝命速見ニ
至リ。ホノリノ岳ニ登リ検査シ。伊豆ノ神湯ヲ發見シテコレヲ開ク

大臣大汝命ノ女高津姬命眼病ヲ患フ既ニ久シ速見ノ温泉ニ滌テ瘥ユ

大臣少名彦命。サウノ小濱ノ砂ヲ潮ニ煮テ布ニ包ミ脊中ヲ煖ム甚タ功能アリ此所ヲ燒砂郡
ト云シヲ今八阪ト云ハ訛言ナリ

二大臣共ニ醫術ヲ經驗シテ子孫ノ産業ト爲ス

味鋺高彦根命積羽八重言代主命二名ヲ令テ天下ヲ巡視セシム陸羽ヨリ北海道ニ至ル

天野生玉命ヲ大臣ニ任ス○木股命。天野御井命祭典ヲ掌リ天之岩戸ノ噓樂ノ狀ニ習ヒテ太
平豊穰ヲ祈ル

味鋺高彦根命。天野生玉命。天野三降命國政ヲ行フ天下ノ百姓公租ヲ彦根命ニ進ム。命

受クヘキ理ナキヲ説テコレヲ受ケス

三大臣天下ヲ巡視シテ村長。婚禮法。産婆ヲ定ム

大臣積羽八重言代主命商法ヲ人民ニ教フマツ攝津ノ水速ニ始メテ全國ニ及ホス○菰枕志主
命ニ議リ網ヲ製シテ漁獵ヲ勸ム○大臣全國ヲ巡視シテ商法ヲ開カシム。殺實命以下五名
ヲ其頭ニ任ス

味鋺。積羽ノ二大臣。建御名方命ノ力量ヲ試ム丹波ノ江崎ニ大石ヲ海ニ投ス島トナル。タ
ケ島是ナリ

武房相ニ兇賊アリ。建御名方命ヲ令テコレヲ平ケシム。モヒウケノ岳ニ至ルニ巨魁來テ角
力ヲ乞フ。命捕ヘテ磐上ニ投ス爲ニ死ス餘黨悉ク平ク

大汝命其子山城命ニ弓術ヲ。若經津主命ニ馬術ヲ。八廣矛長依彦命ニ劍。大鉞術ヲ帝都ニ
學ハシム

越前ノイマドノ岳ニ賊アリ大汝。少名彦ノ二大將。味鋺高彦根命以下十將ヲ率テ。クマト
ノミ岳ノ麓ニ到リ斥候ヲ出シテ其出入ヲ見セシムルニ北ノ方ニ一條ノ道在ルノミ大將少
名彦命謀テ巨魁ヲ斬ル殘徒武房相ノ。ニノウノ山ニ走ル諸將追テコレヲ撃ツ賊降伏ス捕
ヘテ南海ニ流ス

大臣少名彦命淡島ヨリ外國ニ渡ル大臣大汝命コレヲ嗟嘆ス
大臣大汝命幸魂。奇魂ヲ大和ノ青垣ノ東山ニ祭ル

諸國ノ百姓牛馬ヲ殺シテ其肉ヲ食ヒ其皮ヲ敷物ニセンコトヲ請フ大臣大汝命私ニコレヲ免
ス勸農頭大年命物議アリ天下大ニ饑ル大臣大汝命大ニ驚愕シテ伊那佐ノ小濱ニ禊ヲ行ヒ
天地神祇ヲ祭リ子。味鋌高彦根命。積羽八重言代主命ヲ參朝セシメテコレヲ奏聞ス

○第八 綴

猿田彦命生ル處ヲ加賀ト云フ

天野御柱命外七名ヲ人民ノ千萬ノ業法頭ニ任ス

金山彦命外七名ヲ教正ニ。八衢彦命外七名ヲ醫師頭ニ。速明津彦命外二十九名ヲ警視頭
ニ任ス

天野食穗御身尊即位ス。コレヲ

天饒國饒天津日高彦正哉吾勝々速日天野食穗御身天皇ト稱ス

玉依豐榮媛尊ヲ立テ皇后トス

八意思兼命。天野兒屋命天野太玉命大臣タル故ノ如シ

天野岩戸別之伊狹經津魂命以下五十名ヲ諸官ニ任ス○天野言解之男命以下二十九名ヲ語學

博士ニ任ス以上ヲ雲上ト稱ス

大雷命以下五十七名ヲ國守ニ。飽食之大人命以下五十一名ヲ穀種頭ニ。久々能智命以下百

四名ヲ勸農頭ニ同命以下五十四名ヲ水練頭ニ。鳴澤之男命以下三十五名ヲ衣裳裁縫頭ニ
大汝命以下十五名ヲ醫師頭ニ。伊豆之尾羽張命以下十一名ヲ商法頭ニ任シテ全國ニ赴任
セシム

國照大神奏シテ曰ク豐葦原之千秋之長五百秋之瑞穗國ハ吾裔ノ治ムヘキ所ニアラス皇太子

食穗御身天皇親裁アルヘシト上皇コレヲ群臣ニ議セシム群臣議シテ。天野穗日命ヲ遣ハ
シテ大汝命ト共ニ天下ノ諸賊ヲ平ク三年ニ及フ穗日命ノ子建美熊命又到テ父君ニ力ヲ協
ス穗日命歸京シテ臣其任ニ堪ス願ハ天津國魂命ヲ令テ代ラシメンコトヲ奏ス。皇族高來

尊群卿ニ議テ國魂命ニ任ス命病ニ依テコレヲ辭ス其子。天野若彦命ニコレヲ任シ授ルニ
弓矢ヲ以テス。若彦出雲ニ至リ大國主命ノ女。下照姬ニ婚シテ八年ニ及フマテ寸功ナシ

大臣思兼命奏シテ若彦ニ歸京ヲ命ス若彦拜セス。名鳴女雉子ト云フ者ヲ遣ハシテコレヲ
糺問セシム若彦天賜ノ弓矢ヲ以テ之ヲ射テ殺ス。高御產靈尊大ニ怒テ若彦カ新嘗シテ晝
寢スルヲ窺ヒ射テ殺サシム若彦ノ父國魂命其責臣ニ在ト自ラ手足ノ爪ヲ拔テコレヲ謝ス

○味鋌高彦根命若彦ノ變ヲ聞テコレヲ問フ時ニ若彦ノ妻子其處ニ來リ誤テ彦根命ヲ若彦

勅使出雲ニ赴ク

ト爲ス彦根命大ニ怒テ其喪屋ヲ切崩ス其處ハ近江ノ喪山ナリ下照姫歌ヲ作ル其詞ニ云ク
石川片淵

岩星之男尊ノ子。經津主命ヲ勅使トシテ出雲ニ至ラシム勅使大汝命ニ問テ曰ク。此國ハイ
カナルヤ。大汝命對テ曰ク吾祖國照大神ノ遺言ニ國家平定セハ天皇ノ親裁ヲ仰クヘシト
故ニ太政返上ニ於テ異議ナシト勅使又大汝命ノ子八人ニ問フ異議ナシ。積羽八重言代主
命ハ。ミヅノ山ミヅノ岬ニ游漁ス。建御名方命ハ加賀ノ陣中ニ在リ勅使稻脊脛命ニ命シ
諸手船ヲ出サセテミヅノ岬ニ至リ言代主命ニ朝旨ヲ傳フ言代主命答テ曰ク不肖ハ父大汝
ノ命ニ違フヘカラス我赤心ヲ表ハスヘシト直ニ其身ヲ海ニ投ス勅使大ニ驚キ天野鳥船命
ヲ令テ之ヲ助ケシメ而後復命ス

大汝命政權奉還
ヲ允ス

大臣大汝命。味鋤高彥根命以下九子ヲ率キ參朝シテ政權ヲ奉還セント請フ則允ス
詔シテ正哉吾勝々速日天野食穗御身天皇ニ遷都シテ萬機ヲ親裁セシメムトス。天皇辭テ曰
ク皇太子天饒國饒天津日高日子穗之饒々尊ニ任スヘシ皇子ノ生母ハ高御產靈尊ノ女王萬
幡豐秋津尊ノ女。玉依豐榮媛皇后ナリ

八島知之臣尊ヨリ天野冬衣尊ニ至ル五代ヲ皇族ニ列ス○大臣大汝命ノ子十名ヲ大臣ニ列ス
加賀國未タ平カナラス。建御命ヲ大將ニ任ス諸軍ヲ率テ。ユマノカワケニ陣ス。建御名方

遷都ノ地ヲ撰フ

命陣中ニ至リ大將ニ對シテ大石ヲ投ス大將受テコレヲ海ニ投ス。タコ島トナル大將。御
名方ヲ捕縛ス御名方大將ノ名ヲ問フ大將曰ク官軍ノ首將建御雷命ナリ。御名方大ニ恐怖
シテ余ハ大汝ノ子御名方ナリ當國白岳ニ賊大谷熊アリ父ノ命ニ依テ之ヲ平ケントスル既
ニ久シ然ルニ二大將ノ出陣ヲ誤テ賊ト認メタリ請フ其非禮ヲ免セト。大將聞テ縛ヲ解キ
其賊ヲ御名方ニ任セテ常陸國ニ至リ。カク島山ニ登リ山上ノ磐窟ニ甲冑ヲ入置テ亂
陣ス

建御名方命ハ其賊ヲ平ケ又駿河ノ富士山ニ耀星之男ヲ説ントシテ建御雷命ノ部將倭文男命
ヲ添テ建ハツ命ニ説諭セシム而シテ信濃ノ諏方ニ出テ水平湖ニ大魚ヲ漁シ大將建御雷命
ヲ饗應シ其川上ニ八廣矛ヲ刺立テ是ヨリ參朝ス

詔シテ諸臣ニ遷都ノ地ヲ撰ハシム國之玉分命日向ノ高千穂ノ奇振嶽ハ地位南面ニ弘ク四方
連山アリ又田島多シ群臣ノ宅地亦便ナルヘシト奏ス○大臣大汝命之ヲ檢査シ地位ヲトシ
テ所掌ヲ定メ宮殿ヲ造營ス大臣大汝命ヲ大床主命ト稱スルハ此時ノ一名ナリ○手置帆負
命ハ地形ヲ掌リ彦根知命ハ宮殿ヲ掌ル以下諸職ヲ定メテ土木ノ功創峻ヲ奏ス
天皇皇太子饒々尊ニ三種神器並ニ國向日矛ヲ授ケテ天位ニ即カシメ定都ノ地ニ行幸セシム
先帝ノ功臣八意思兼命。天野兒屋命。天野太玉命以下四十名僚屬百三十名供奉タリ○天

高千穂ノ二上岳
ノ新宮ニ着御

野押日命ハ弓隊ヲ率テ前驅ス天野村雲命太玉串ヲ持チ天野劍彦命ハ矛隊ニ將タリ岩阪彦命ハ錦旗ヲ掌リ大國主命ハ鳳輦ヲ裝飾ヒ味鋸高彦命。積羽八重言代主命ハ沿道ヲ警蹕ス猿田彦命ハ天之八衢ニ迎ヘテ嚮導トナル○龍アノノキヘシ船フネニ乘御シテ。マナカタニ安坐ナス太田主命迎ヘテ翌日高千穂ノ二上岳ノ新宮ニ着御ス此月ヲムツビ月ト云フ太陽東ノ六ノ殿ニ上ル故ニ號ス着御ノ日ヲ元日ト定ム○時ニ天皇年六十六

○第九 綴

懿々天皇治世

一年ヲ十二月ニ定ム

穗之饒々天皇二上ノ新宮ニ萬機ヲ親裁ス三大臣モ一ツ岳ノ大宮ニ侍坐ス一年ヲ十二月ニ定ム曰ク。ムツビ月。曰クケサリ月。曰クイヤヨ月。曰クウベコ月。曰クサナヘ月。曰クミナツ月。曰クフクミ月。曰クハヤレ月。曰クナヨナ月。曰クカナメ月。曰クシブル月。曰クシハツ月

一月ヲ三十日ニ定ム

一月ヲ三十日ニ定メ月ノ盈虧ニ依テ始メ月立ノ十日中ヲ月圓ノ十日。後ヲ月籠ノ十日ト稱ス

四季ヲ定ム

四季ノ稱ヲ定ム。一二三月ヲコノメハル。四五月ヲクニアツ。七八九月ヲタナツアキ。十一月十二月ヲコネノフユト云フ

一年ヲ三百六十日ニ定ム

一年ヲ三百六十日トシテ十二月ノ末ニ三四日ノ閑日ヲ置テ六ノ殿ノ日出ノ舊ニ復スルヲ以

四方稱ヲ定ム

テ一月一日ト定ム其法乃チ日脚ニ依ル四方ノ稱ヲ定ム。東ヲヒガシ。西ヲヒニリ南ヲヒナタ。北ヲヒウケト云フ

時刻ヲ定ム

太陽ノ運行ヲ計テ晝夜ヲ六時。十八刻ト定ム

天文ヲ測ル

諸星ノ運行ヲ測ル

アレヌ星ハ曉ニ出テ晝夜ニ二周ス○ヨチ星ハ一年ニ二周ス○ス星ハ一年ニ一周ス○ヤミ星ハ一年半ニ一周ス○トミ星ハ二年ニ一周ス○ツヒ星ハ三年ニ一周ス○ナコ星ハ四年ニ一周ス○ナカ星ハ五年ニ一周ス○アレ星ハ六年ニ一周ス○ツマ星ハ七年ニ一周ス○ミホ星ハ八年ニ一周ス○タ、ラ星ハ十年ニ一周ス○トロ星ハ十八年ニ一周ス○カキ星ハ三十六年ニ一周ス

大嘗會ヲ行フ

大嘗會ノ式ヲ行フ

猿田彦命ニ宇受女命ヲ賜フ

猿田彦命日向ノ。オソ岳ニ炭ヲ燒事ヲ發明シテコレヲ獻ス叡威アリテ全國ニ教ヘシム○直入ノスガ山ニ至リテ洪水ヲ治ム其所ヲヒキト云フ○大分ノタケサワヲ經テスチタケノ速見ニ出テ由布水ノ深江谷ニ橋ヲ架ス此處ヲ猿渡ト云フ○巡視シテ此所ハ木立多ナルカモト云シ處ヲアヒラト云フ假屋ヲ建シ處ヲカクラメト云フ○胸國頓丘ヨリ國求通リシ處

大臣天下ヲ巡視ス

ヲミチエヌト云フ○吾田ノ笠狭ノ岬ニ至リ長屋高島ニ登リテ事勝國勝長狹命ニ會シテ贈ノ崎ノオツマニ賊アルヲ聞テ終ニ射テ之ヲ殺ス餘黨悉ク平ク○肥前後ノ深淵ニカガサス媛ニ會シテ農事ヲ掌ラシメテ宇受女命ト朋友トス○筑後ノ上妻戸ノ一婦人ニ裁縫ヲ掌ラシム

思兼。兒屋。太玉ノ三大臣天下ヲ巡視ス岩代國ノアサカスニ怪力ノ兄弟アリ。サヨ岳ニ大岩ヲ拔ク水湧出テ川トナル。コレヲ猿川ト云フ。大臣兄弟ヲ賞シテ名ヲ授ク

天野押雲命二上岳ニ清水ヲ求テ御饌ノ料ニ供ス

事勝國勝長狹命長防藝ノ内海ノ邊津海ノ邊津海ニ鹽ヲ製シテ供御ノ料ニ供シ又大野原ノ國

ニ醬油ヲ作りテ獻ス

積羽八重言代主命外二名海部ノ岬ニ小舟ヲ多ク作り網ヲ製シテ漁獵ヲ勸ム

豊山咋命外二名ヲ造酒頭ニ任ス

眞榮八身命ハ木葉湯。石凝戸女命ハ草花湯ヲ獻ス

大久米命。若經津主命ヲ侍醫ニ任シテ醫道ヲ勸メシム

大臣天野兒屋命笠狹岬ニ至ル偶然佳人ヲ見テ其名ヲ問フ對テ曰ク大山津見命ノ女。木花咲

夜媛命ナリ大臣奏シテ皇后ニ召ス山津見命大ニ悅テ姉岩長媛命ヲ添テ入内セシム

大婚ノ禮ヲ行フ

木花咲夜媛尊ヲ立テ皇后ト爲シ岩長媛命ヲ妃トス○二月十四日大婚ノ禮ヲ行フ御製アリ大

山津見命以下五名和シテ之ヲ賀ス

皇子火須勢理尊母ハ皇后後ニ天照國照忍日子後持尊ト稱ス。火遠理尊同母双生後ニ天鏡國

德々出見天皇降臨

饒天津日高彥穗々出見天皇ト稱ス

皇子甘美眞遲辨尊母ハ皇妃一名甘美眞遲美尊トモ稱ス

天野穗日命ハ大汝命ノ宮ヲ出雲ニ作ルニ諸方ノ名産ヲ用フ就中陸羽國ノイナ山ニ出ルユツ

玉ヲ柱コトニ結ヒ纏ヒ美麗ヲ盡ス○天野案山子命ハ大汝命ヲ迎フ

詔シテ大汝命ニ牛車ヲ賜フ大汝命拜謝シテ出雲ニ還ル長門ノ豊浦ニ至リ七月七日ヨリ二十

四日マテ此地ニ止リ八月十二日出雲ニ着シ其宮殿ヲ觀テ賞シテ曰ク彌穗ニ宜築キツルカ

モト故ニ杵築宮ト云ノ○十月八日自ラ八尺ノ曲玉ヲ抱テ薨ス

○第十 綴

大國主神幽事ヲ掌ル諸神會合ス子孫參集シテ祭典ヲ行フ

詔シテ甘美言配置命外七名ヲ令テ語學ヲ全國ニ教授セシム

八意思兼命 **ア** **ス** **ウ** **ニ** **カ** ノ五字ヲ作ル○大屋彥命四十五ノ物

大汝命薨ス

文字ヲ製ス

フ書キ言分トシテ形假名ト稱ス依テ五十猛命又五十言丈命又五十連命ト稱ス

カ	サ	タ	チ	ニ	ヒ	ミ	イ	リ	キ
シ	フ	ツ	ネ	ハ	メ	エ	レ	エ	ケ
ス	テ	ヌ	フ	ム	ユ	ル	ウ	ク	ケ
ク	セ	セ	ハ	メ	エ	レ	エ	ケ	ケ
ケ	セ	テ	ネ	ハ	メ	エ	レ	エ	ケ
ケ	セ	テ	ネ	ハ	メ	エ	レ	エ	ケ
ケ	セ	テ	ネ	ハ	メ	エ	レ	エ	ケ
ケ	セ	テ	ネ	ハ	メ	エ	レ	エ	ケ
ケ	セ	テ	ネ	ハ	メ	エ	レ	エ	ケ
ケ	セ	テ	ネ	ハ	メ	エ	レ	エ	ケ

大國シロステ命形假名ヲ以テ古傳説ヲ書記シコレヲ獻ス故ニ八重言代主命ト名ヲ賜フ其歴史ヲ散覽アリテ過ニシ事ヲ二度見ツルカモト詔ス故ニ之ヲフタミモジリト云フ。今フミト云ハ略語ナリ其書タルモノヲ綴リ掛シ狀ハ今高千穂ノ岩屋ニ齋キ奉ル日ノ御形ノ前邊

官位職制ヲ改正ス

ノミタニサクリコレナラ
天文地理年月日時刻ノ制ヲ確定ス
三大臣海水ノ満干ヲ測ル

度量衡ヲ製ス

皇族ノ祖先ヲ星神ト稱シテコレヲ祭典ス○星辰ヲ十二月ニ配シテ毎月ノ守護神ト稱ス
功臣ノ官名ヲ六級ニ定ム。曰ク高津大卿等。曰ク高津卿等。曰ク明津頭等。曰ク清津頭等
曰ク戰頭等。曰ク平正等。○官職ヲ十七級ニ定ム。曰ク大申政。曰ク小申政。曰ク大臣
曰ク小臣。曰ク國令。曰ク内宿禰。曰ク外宿禰。曰ク侍從。曰ク大夫。曰ク舍人。曰ク
衛士。曰ク丈。曰ク郡司。曰ク郷司。曰ク隊長。曰ク使士。曰ク神官。曰ク村長
高津大卿等天津彦根命。高津卿等天野目一命。明津頭等手置帆負命議シテ高千穂ノ米粒ヲ
以テ法ト爲テ度量衡六種ヲ製ス
天野稻依彥命外三十五名ヲ勸農頭ニ任シ全國ヲ巡視セシメテ農事ヲ勵ス
十四味ノ稱ヲ定ム

○第十一綴

天皇公田ヲ親耕ス
東國巡幸

先帝ノ遺詔ヲ承ケ天皇公田ヲ親耕シテ人民ニ農事ヲ勸ム大臣以下百官皆コレヲ學フ
三大臣ニ議シテ天下ヲ巡幸セムトス。豐神先立命以下職ヲ奉シテ供奉スル者三百五十七名

繪扇ヲ獻ス

人民ヲ教化ス

四種ノ土質ヲ檢査ス
陶器ノ土ヲ檢査ス

天津棚機彦命外九名御衣ヲ獻ス

金山彦命外五名繪扇ヲ製シテ皇后ニ奉リ供奉ノ女官ニコレヲ贈ル

大直日命外十一名板輿ヲ獻ス

高千穂ノ二上ノ大宮ヲ發遣ス猿田彦命前驅ス○豊後ノ大分郡ノ行宮ニ臨幸ス百姓多ク迎

ヘ奉ル故ニ此所ヲ御寶山ト云フ○國守赤飯ヲ以テ饗ヲ奉ル詔ニ曰ク小豆ノ赤榮ニ在カ

モ○故ニ此所ヲエノコワト云ヒ○大臣ノ着所ヲクルス野ト云ヒ○百官ノ着所ヲセリト云

ヒ○馬ヲ繫キシ所ヲコマツト云ヒ○牛ヲ繫キシ所ヲツカスト云ヒ○百姓ヲ召シ所ヲイチ

ト云フ○宇賀命ヲ長官ニ任シテ農事ヲ勤メ開墾ヲ勵シメ家作ヲ改メ語學ヲ授ケ漁獵商法

以下百事ヲ教諭ス黎元萬歳ヲ唱フ

○第十二綴

豊日別大戸長命ヲ御寶山ニ殘シテ百事ヲ管理セシム

豊ノ長間ノ海ニ臨幸ス渡守主命宮ヲ建テ饗ヲ奉リ天ノ浮橋ヲ作りテ渡シ奉ル○クマスケノ

郡ニ臨幸ス國守○クマスケノサナキ山ニ行宮ヲ作りテ迎フ此所ニ駐蹕スル一年○タケ山

ノ川ノ上野ニ木ヲ立テ百姓ノ用ニ供シ其麓ノ平地ハ大山見命ノ知行所ナリ○奇山村眞鳥

命ヲ令テ四種ノ土質ヲ檢査セシム○豊奇萬種分命外五名陶器ノ土ヲ檢査ス○玉作彦御祖

陶器ヲ製ス

山鹽ヲ執ル

命外五名玉ヲ製ス○穗分彦御祖命外七名野火ヲ守ル○ハブヤ彦御祖命外五名陶器ヲ製ス

○事勝之御子命山鹽ヲ執ル○豊奇萬種分命外七名ツチサキ山ノ麓ニ鑛山ヲ開キテ人民ニ

其法ヲ教フ○穴門別足彦命行宮ヲ守衛ス此所ヲアナドト云フ

出雲ノアハイヒノ郡ニ行幸國守多根山ノ行宮ヲ迎ヘテ饗ヲ奉ラントスルニ食器頗ル粗ナリ

尾羽張言勝彦命八重タミ山ニ土ヲ採テ供御ノ器ヲ作ル○出雲別神建彦命ヲ多根山ノ行宮

ニ止メテ國內主トス

備中ノカウサノ郡ノヤコ山ノ行宮ニ臨幸シテ二十名ノ頭ヲシテ百事ヲ教諭ス百姓大ニ悅テ

庭上ニ樂ヲ奏ス

丹波ニ行幸ス○イカルカノ郡ノミタナヒノ山ノ行宮ニ樂ヲ奏ス

越中國ノ礪波郡ノマキ山ノ行宮ニ臨幸ス○天津表春命ミセノ郡ニ出ル時カグロ山ノノメミ

ノワタリニテ從者三人谷ニ落入二人ハ蘇生ス一人ハ老人ニテ終ニ死ス命自身ノ衣裳ヲ着

セ玉ヲ持セテオノガ山ノ頂上ニ葬ル○天野稻撰彦命越ノケヌ山ニ登リ國狀ヲ見テ早稻ノ

種ヲ蒔シムコレヨリ豊穰多シ○越根別建宮彦命ヲ礪波ノマキ山ニ殘シテ國守トス

○第十三綴

陸前國ノ刈田郡ノアウキ山ノ行宮ニ臨幸ス○奇彌玉村鳥命外九名カム山ニ鑛山ヲ開ク○建

土地開墾ノタメ
大ニ禽獸ヲ狩ル

竹ヲ以テ琴ヲ製ス
近江ノ湖水ノ鯉魚

玉彦命外七名ナ山ニ玉ヲ造ル○刈媛命ヲ刈田郡ノ青井山ノ行宮ニ殘シテ國守トス○八千道彦命ヲカクシマ郡ノマヅク山ニ止メテ國守トス

二總常國ノナミキ山ノクラカタニ大墓アリ人民ヲ害ス天野日鷲命ヲシテコレヲ殺サシム命室天野日越之女命ヲ具シテ到ル其谷ヲワシ谷ト云フ今ナシ谷ト云ハ訛言ナリ又オナマコデノ里ト云フ大墓ノ住シ所ヲク谷ト云フ

カウチ山ノ行宮ニ臨幸ス○潮大分命ヲシテオマドノ海ニ鹽ヲ燒カシム
詔ニ曰ク。此國人民多シト雖モ未ダ開墾ノ業ヲ果サスト。山雷之男命外四十一名ヲシテ大ニ禽獸ヲ狩シム追テ野。越。信。陸。ノ諸方ニ及フ

上野ノ戸倉ノ郡ノクラ山ノ行宮ニ臨幸シテ此所ニ駐輦スル八年

武房相ノクラトノ郡ノ大クラ山ノ行宮ニ臨幸ス國人樂ヲ奏ス

遠江ノ人美酒數樽ヲ献ス

伊勢ノワタラメノ郡ノイダカ山ノ行宮ニ臨幸ス此所ノスガノタカ山ノ田ハ平ニシテ甚タ廣シ○吾勝イタマノ命竹ヲ以テ琴ヲ作ル奇彌依媛命コレヲ彈ス甚タ風致アリ

兩總常。兩野。武房相。信飛。勢志尾。ニ國守ヲ任ス

近江ノサカタリノ郡ヨネ山ノ行宮ニ臨幸ス國人湖ノ鯉魚ヲ漁テ饗ス國人ノ乞ニ任セテ豊後

蠶種ヲ供フ

大和吉野ノ櫻花

大魚人ヲ害ス

鮪ヲ漁ス

車駕西ニ向フ

ノ綿田郡ヨリ綿種ヲ齎ラシテ滋賀郡ニ植シム

大和ノ吉野郡ノ吉野山ノ行宮ニ臨幸ス信飛ノマアレ山ヨリ蠶種ヲ採テオタヤノ郡ニギマユ。タカチノ郡ニアラ蠶。ワクヘノ郡ニフタコマユヲ養ハシム。ニギ蠶ハ桑木。アラ蠶ハ樅葉。フタコ蠶ハサクリキヲ餌トス

三月十四日山野ニハバカ花ヲ遊覽シテ御製アリ其詞ニ曰ク。幸クニ咲ラム祝クニ咲ラム。是ヨリハバカヲ櫻花ト云フ

攝津住吉郡ノオ山ノ行宮ニ臨幸ス。アラキドノ小濱阿波門ノ濱ノ漁父多ク海中ニ没入ス。オガシト云フ大魚ノ害ニ逢モノナリ。魚捕頭ホスセリ尊言代主命コレヲ射テ殺ス其屍流レテエミトニ至リオガ島トナル

○第十四級

伊豫國サハツノ郡ノサハツ湊ニ著御シテニヒクラノ山ノイハカキノ山ノ行宮ニ臨御ス外海端ノハタノ郡ノイサエノ大濱ノ漁父洋中ニ大魚多シト告ル。魚執頭ホノスセリ尊言代主命令シテコレヲ漁シム其魚ヲ肉魚ト云シヲ今鮪ト云フ

筑石ニ遺幸セントウアノアナト郡ノナカサエ濱ヨリ龍舟ヲ出ス時ニ八月二十四日ノ夜ナリ豊ノ中津ノ沖ニ大雨ニ逢ヒ暗黒針路ヲ失フ思兼。兒屋。太玉ノ大臣議テ移火命拆彦命ヲ

車駕都ニ還ル

年始門邊ノ飭ヲ
恒例トス

シテ濱邊ニ火ヲ點セシム。アナドノ門トヨノ門イブキ門ヲ越テ筑前ノワニノ門ニ着御シ
上坐郡ノタチミ山ノ行宮ニ臨御ス。○怡土郡ノナカツ濱ヲ遊覽ス

詔シテ曰ク。對馬壹岐ハ皇太子ヲシテ巡幸セシメムト上坐宮ヨリ速日ノエサトノ行宮ニ
臨御ス十二月間日ア、ソ郡直入郡ウスツキ郡ノ毎戸門邊ニ常盤木ヲ以テ種々ノ飭ヲ設
ケテ還幸ヲ祝ス翌日又一年ノ一月一日タリ詔シテ此飭ヲ年始ノ恒例トス。○諸國萬物ヲ獻
ス

詔シテ皇子火須勢理尊火遠理尊ノ内ニ天職ヲ讓ルヘシト。ホスセリ尊云ク吾ハ愚ナリ家
弟ニ讓ルヘシト。ホヨリ尊曰ク家兄アリ吾何ソコレヲ承ント互ニ相辭シテ皇太子定ラス
○詔シテホスセリ尊ニ海漁ヲ任シ。ホヨリ尊ニ山獵ヲ任ス或時互ニ其道具ヲ替テ遊獵ス
ルニホヨリ尊大分ノ速吸門ニ釣ヲ失ヒテ大ニ耻テ嘆息ス。ホスセリ尊新釣ヲ出シ示シテ
汝一釣ヲ失フトモ我藏ル所此ノ如シ必ス嘆スル勿レト云フト雖モ尙止ス終ニホスセリ尊
佩劍ヲ破テ釣トシ箕ニ盛テコレヲ示ス。ホヨリ尊彌其懇情ヲ耻。速吸門ヲ經テ瓜生ノ小
濱ニ鹽土老翁ニ會シテコレヲ語ル老翁慮テ海國ニ到ルヘシト教ヘテ竹藪山ニ竹ヲ執テ間
ナシ堅間ノ小舟ヲ造リ皇子ヲ乗シム則小海ナル深水門ニ着シ小濱ニ上陸シテ大海見豊玉
彦命ノ宮ニ到リ井ノ邊ニ踏ム豊玉彦命迎ヘテ饗ヲ奉ル禮甚タ厚シ皇子此地ニ止ル終ニ三

年豊玉彦命其女豊玉姬命ヲ皇子ニ獻シテ婚姻ノ禮ヲ行フ

天皇ホヨリ尊ノ所在ヲ知ラス甚タ宸襟ヲ煩ス

ホスセリ尊ハ諸大臣ニ乞テ家弟ノ歸京ヲ謀ル大臣猿田彦命ニ令シテコレヲ迎ヘシム猿田彦
命豊國ノクニノサキノ濱ヒメナメノタカツノミヲサキヨリ渡海ス

皇子海宮ニ在テ或日突然大息ス姫コレヲ父君ニ告ル父君コレヲ皇子ニ問フ皇子云々ヲ語ル
猿田彦命可恰小濱ニ着シテ豊玉彦宮ニ到リ皇子ニ歸京ヲ催ス爰ニ於テ豊玉彦命多數ノ新釣

ト潮満玉潮干玉トヲ獻シ咒法ヲ授ケテ曰ク家兄ノ言ノ如ク君天職ヲ承ヘシト祝シテ豊玉
姫尊ヲ附シテ歸京セシム豊ノマナカ山ニ着シ處ヲ八雲山ト云フ皇子ノ休息セシ所ヲ彦ノ
山。アワサクノ頭ノ扣ヘシ所ヲクシ山ト云フ海宮ヨリ供奉スル舟子ヲウガツチト云フ其
數ヲ減ズル所ヲツチミ山ト云ヒ其屯セシ所ヲタカラ山ト云フ老翁夫婦海宮ヨリ供奉シテ
左右ニ侍ス鹽凝彦老翁命鹽凝姫老姬命ト名ヲ賜フ其住シ所ヲオヂウバ嶽ト云フ又陪駕ノ
者ヲ近江ニ住シム其所ヲウガチ島ト云ヒ又磐城ノ白河山ニモ住シム其所ヲウガチスト云
フ

天津ホスセリ尊ホヨリ尊ニ謂テ曰ク。汝天賦ノ精神敏達ニシテ我及フ所ニ非ス速ニ天職ヲ
承ヘシホヨリ尊對テ曰ク家兄アリ吾何ソコレヲ承ノ理アラント堅ク辭シテ止ス爰ニ於テ

ホ、テミ尊皇太子
子ニ立ツ

皇太子即位

上崩ス

天皇皇后ニ和歌
ヲ賜フ

ホスセリ尊吾世ニ在ハ此事一ニ定ルヘカラスト高千穂ノ岩屋ニ幽居ス○詔シテホヲリ尊
ニ天職ヲ讓ルノ吉凶ヲ大臣ニトセシム果テ吉ヲ得タリ
詔シテホヲリ尊ニ

天職國饒天津日高日子穗々出見命ト名ヲ賜フ群臣コレヲ賀ス

大臣岩戸ニ赴テホスセリ尊ニ之ヲ告ク尊大ニ悦テ岩戸ヲ出ツ○詔シテホスセリ尊ニ天照國

照吾子穗之後持尊ト名ヲ賜フ

詔シテ穗々出見尊ニ三種ノ神器ヲ授ケテ即位ノ大禮ヲ行フ○穗之後持尊ニ八廣矛ヲ授ク○

ウマシマチベ尊ヲ太政大臣ニ任ス

天野兒屋命以下功臣ノ系統ヲ糺シテ諸官ニ任シ○皇族ノ系統ヲ糺シテ位次ヲ定ム

○第十五綴

上皇崩ス。高千穂ノ可愛山ノ半腹ニ葬ル

豊玉姬尊ヲ立テ皇后トス皇后皇子降誕ノ粧ニトテ海宮ニ還ル其船ヲ出シ、所ヲサガト云フ

ミヲツ姫命ヲ續トス皇子建佐彦尊次ニ皇女ウケチホ、媛尊ヲ産ム

サナギ姫命皇子惠美豆火明尊ヲ産ム

皇后海宮ヨリ妹玉依媛命ヲ令テ歌ヲ奉ラシム天皇和シテ沖津鳥鳴トク嶋ニ朕寢シ云々ヲ

賜フ

詔シテ安姬命外三名ヲ令テ大碩ノ海ノ沖ノ島ニ迎ヘシ所ヲムカ島ト云フ

皇后還御シ産宮ノ雨走未ダ葺畢ラザルニ入御ス皇后天皇ニ告テ曰ク戸内ヲ覽ル勿レト天皇

怪ムテ竊カニ窺フ皇后大ニ愧テ産宮未タ葺合ズハ戸内甚明シト悔恨洪歎ノ餘リ此所眞闇

ナレト曰シヨリ海邊ノ砂悉ク黒クナリシト云フ皇子降誕ツチミタチノ温泉ヲ汲來テ産湯

トスコレヲ煖シシ所ヲニユト云フ

皇后愧テ海宮ニ走り還ラントセシ所ヲクリサキト云フ皇太子傳コレヲ止メ奉リシ處ヲ媛

島ト云フ天皇皇后ヲ慕ヒシ所ヲヲハナト云フ皇子ノ胞衣ヲ埋メシ所ヲエナクマ○新宮ヲ

建テ天皇皇后ニ相見ヘシ所ヲ直入宮ト云フ

天皇皇后ニ謂テ曰ク皇子ノ名ハ如何。皇后對テ吾ハ白サジ彦父ソ宣フヘキト云フ天皇曰ク

我名ヲ讓ルヘシ皇后曰ク

天饒國饒天津日高日子波限建產葺草葺不合尊ト名マセ天皇コレヲ然リトス則チ皇太子ナリ

天野押術命産宮ニ奉仕シテ蟹掃ヲ掌ル其住シ所ヲカニクラト云フ

大禍日命四世ノ孫禍ヨスセリ命河内國ノタチヒニ國守ウマベツル命ヲ射殺シ其國ヲ押領シ

テ人民ヲ害ス詔シテ速玉イサラ彦命外二名ヲ大將ニ任シテコレヲ征討セシム大臣思兼神

皇后海宮ヨリ還
御
皇太子降誕

ヨスセリ狗人トナル

桶ヲ作ル

度量衡改正

壹岐ニ巡幸

建命謀ヲ授ルニ天皇先ニ海宮ニ得ル處ノ鈎ヲ以テス三大將潛行シテヨスセリノ海濱ニ釣スルニ會シコレヲ海中ニ捕フヨスセリ拜シテ罪ヲ謝シ今ヨリ朝廷ニ仕ヘテ狗人トナルヘシト云フ故ニ聽ス○ヨスセリ通テ兩總常ニ走り又ナツキ。ツナユリノ二頭ヲ殺シテ謀反ス○詔シテ御雷劍術命外七名ヲ大將ニ任シ二玉ヲ授ケテ追討セシム。ヨスセリ兩總常ノイヅ山ニ據テ堅ク防ク官軍隊ヲ分テ黨與ヲ伐チ謀テ巨魁ヲ捕フ恐怖シテ紀泉攝ノ誓言ニ違ハス狗人トナル則コレヲ率キテ復命ス

皇后天津直入命ヲ産ム又白杵ノ竹倉島ノ宮ニ天津白杵根命次ニ天津建倉置命ヲ産ムサスラ清御靈命以下二十五名諸職ヲ奉ス
ワヅ高來命ワヅスキキ命桶ヲ製ス

劍大熊命一種ノ鞍ヲ製ス

積羽齋 諸命外五名ヲ令テ度量衡ヲ改正シ諸國ニ開市シテ商法ヲ勸メシム

突鉞徹命以下五名ヲ武官ニ任シテ武術ヲ勸ム

肥前後ニ臨幸シ游覽ノ所ヲ阿蘇ト云巡行穰種ノ所ニテ此地ハ米實ノ足ル國カモト賞シテ御製アリ此所ヲアキタト云駐轡スル一年

先帝ノ遺詔ヲ奉シ皇后ト共ニ天之一柱島ニ行幸ス兒屋表春命思兼神建命太玉奇耳命大土道

守命以下供奉タリ

○第十六綴

島人眞赤ノ大瓜ヲ奉リシ所ヲアマリト云ヒ眞魚ヲ奉リシ所ヲイシドト云ヒ土人ニ酒ヲ賜ヒ

シ所ヲタルケノ浦ト云フ此所ニ御製アリ

狭手依國ニ渡御ス老翁二人白酒ヲ献ズ賞シテコレニ名ヲ賜フ○アガタノ郡フカムレニ一佳人アリ一男コレニ通センコトヲ欲シテ片履ヲ其戸内ニ投ス佳人執テ納ムコレ其男ニ婚ス

ヘキノ徴トス土人之ヲ婚姻ノ禮トナス又一男アリ其片履ヲ投スルニ婦執テ納ム爰ニ於テ

二男爭テ公訴ニ及フ供奉ノ大臣兒屋表春命婚儀ハ必ス媒酌ニ依リ父母ノ承諾ヲ得テ禮式

ヲ行フノ大典ヲ示シテコレヲ勸解ス

天之押古呂別國ニ渡御ス。オチノ國見嶽ノ行宮ニ臨幸ス漁父海魚ヲ手執ニシテ奉リシ所ヲ

テブリト云フ○供奉ノ大臣太玉奇耳命漁獵ノ網ヲ製セシ所ヲアスキト云ヒ二兒島ニ渡御

ノ際南風吹來テ龍舟泊セシ所ヲ福浦ト云フ

二兒島ニ渡後シテカモノ郡ノ杉山ノ行宮ニ渡御ス漁父屍捻貝ヲ献ス供奉ノ大臣思兼神建命

螺貝ヲ作テ供奉ノ官員ヲ集ル道具トス○天皇親釣セシ所ヲ御手釣ト云フ○思兼神建命ノ

住シ處ヲカネビスト云ヒ大土道別命ノ海遊セシ所ヲサルカケト云ヒ兒屋表春命ノ住シ所

對馬ニ巡幸

隱岐ニ巡幸

佐渡ニ巡幸

龍舟南ニ還ル
國境道法定ル

ヲカスガト云フ○杉山ノ瀧ヲ遊覽シテ御製アリ○ハモノ士人樂ヲ奏ス今大宮ニ睦月九日
サトクラノ禮アルハ是ノ本也

國巡リ畢テ二兒島ヨリ大分ノ黒ノ小濱ニ着御シテ日向ノ高千穂ノ宮ニ還幸ス
二十四國ノ境界道法ヲ定ム

白日國。速日國ハ大宮ノ本代國ナリ。奇日國。豊日國ハ大宮ノ本國ナリ故ニ高千穂ノ二
上ノ西ヨリ國境ノ道法ヲ定ム

愛媛國。飯依國。建依國。大食國ハ愛媛ノオウチ山ノ東ヨリ云々
吉備津根國。丹波國。出雲國。穴門國ハ出雲ノキノヲノ山ノ南ヨリ云々

越根國ハ越山ノ南ヨリ云々
野道路國。吉通路。道路奥ハ野道路ノチネタケノ北ヨリ云々

武藏津美國。遠江國。狹依信濃國ハ遠江國ノフシ山ノ西ヨリ云々
伊勢津國。淡海根國。草木根國。秋津根國ハ秋津根ノタネカチ山××ヨリ云々

天之御柱命ノ子ヲ令テ全國ヲ巡視セシム。スルガニ到テ休息セシ所ヲフシ山ト云ヒ其絶景
ヲ賞セシ所ヲミホ山ト云フ
豊神先立命外三名ヲ外國ニ遣シテ穀物木實ヲ蒔シム

使ヲ海外ニ遣ス

彩色ノ畫始ル
東國巡幸

大臣思兼鳴真弓命。天皇皇后竝位シテ新嘗聞食狀ヲ畫ク賞シテ御製ヲ賜フ

東國ニ巡幸。皇后同車大臣思兼鳴真弓命兒屋奇玉安身命以下十名供奉タリ直入宮ヲ經テ宇
佐ヨリ龍舟ヲ出シテ攝津國ニ渡御ス大河山守秋津カサホ命ウタ山ノ行宮ニ迎ヘテ饗ヲ奉

ル士人參集シテ樂ヲ奏ス時ニ年三百餘ノ老翁三人住江ヨリ來テ樂ヲ奏ス其歌殊ニ興アリ
故ニ此地ヲウタト云ヒ三人ノ老翁ニ住吉神ト名ヲ賜フ

信飛國ノコマ山ノ行宮ニ臨幸ス國人樂ヲ奏ス皇后後レテ到ル士人大ニ悦ヒ歌ヲ作テコレヲ
賀ス

羽後ノオホカチ山ノ行宮ニ巡幸ス土人田畑ノ爭ヲ訴フ兒屋下春命コレヲ裁判ス○國內ノ百
姓ニ教ヘテ山鹽ヲ採セシ所ヲシホ、ドト云フ

兩野國オホヤノベノ行宮ニ臨幸ス山塩ヲ採セシ所ヲシホ山ト云フ
信飛國ノ三所ニ山塩ヲ採シム

津輕郡ニ巡幸シテ直日種別命外二名ヲシテスガネ山ニ玉ヲ執シム切瑳セシ處ヲ玉ツト云ヒ
北ノオチ山ニ琢磨セシ處ヲスリト云フ

加賀國ノエヌマノ郡ニ巡幸シテ御惱アリ小山ノ温泉ニ御シテ復ス故ニ詔シテコノ湯ヲイユ
ト云フ

玉ヲ製ス

田畑ノ爭ヲ裁判
ス
山鹽ヲ採ル

國扇ヲ作ル

扇ヲ製ス

木實ノ油ヲ以テ
火ヲ點ス

諸國年貢ヲ獻ス

天皇讓位

整不合天皇即位

勳位五階

丹波國ノオノ山ノ行宮ニ臨幸ス國守齋麥ヲ以テ饗ヲ奉ル時ニ暑サ酷シ息長明先立命竹ヲ割
テ紙ヲ張り風招テ作りテ奉ル詔シテウチアフギト云フ

出雲ニ巡幸ス詔シテ竹ヲ割リ片端ニ穴ヲ明ケ集テ糸ニ貫キカノメトシ片端ニ紙ヲ張テ開閉
ニ便ナラシム勅ニ曰ク。天津神ヲ招奉ルニ宜シト故ニアフギト云フ

長門國ノシカアノ郡ノサナヘ山ノ行宮ニ臨幸ス菊池大憲彥命木實ヨリ油ヲ採リ菅蘭ノ筋實
ヲ拔テ火ヲ點スルコトヲ發明ス歡感アリテ此法ヲ全國ニ傳ヘシム油ヲ絞リシ處ヲアブラ
サシト云フ

豐前ノ彦山ニ還幸○里人賀シテ樂ヲ奏ス其所ヲ大野ガ原宮ト云フ○高千穂ノ大宮ニ還幸ス
諸國諸島ヨリ年貢ヲ奉ラント曰杵大分ノ兩港ニ多數ノ船ヲ泊ス詔シテ之ヲ納レズ百姓鴻恩
ヲ謝スルニ道ナシト皆感涙ヲ催シ歸ルヲ肯セス詔シテ思兼鳴真弓命ヲ令テコレヲドセシ
メ此度限りコレヲ納レテ酒肴ヲ賜フ百姓大ニ悅ヒテ萬歲ヲ唱フ

天皇皇太子ニ讓位ス

皇太子三種神器ヲ奉シテ正殿ニ即位スコレヲ天饒國饒天津日高日子波限建產葺草葺不合天
皇ト稱ス

勳位ヲ五級ニ定メ各年齡ヲ以テコレヲ別ツ。曰ク貴神四百歲以上。曰ク明神三百歲以上。

曰ク昭神二百歲以上。曰ク福神百歲以上。曰ク平神七十歲以上時ニ百歲以上ノ人二十五
名アリ

上皇皇太后共ニ直入宮又御寶山ノ宮ニ遊御ス里人謳歌シテ之ヲ賀ス

上皇十月二十七日崩ス。壽五百餘歲高千穂ノ高日山ノ西米良ニ葬ル

祭典ノ法式ヲ定メテ恒例トス

○第十七綴

群臣議シテ若玉依姬命ヲ海宮ニ迎ヘテ皇后ニ立ントス十月二十三日大國御魂命速吸門ヨリ
渡海シテ可伶小濱ニ揚陸シテ海津古玉ノ命宮ニ到リ會シテ汝ノ女若玉依姬命ヲ皇后ニ奉
ラムヤト曰フ對テ曰ク吾女甚タ拙シテ恐懼スト雖モ豊玉媛皇后ノ助ヲ蒙ラハ此上ノ幸ナ
リト謹テコレヲ奉シ來三月一日出雲ノ日前濱ニ吾夫婦媛ヲ伴フテ到ルヘシト約ス大國御
魂命出雲ニ歸リ大土道守命ニ命シテクワシ船ヲ造リ大土鬼神命ヲ揖取ニ命ス古玉彥媛命
若玉依姬命ヲ伴フテ出雲ニ到ル○豊後ノ國守ハ御寶山ノフシモトナル大宮ニ飭ヲ設ケテ
迎フ御船ニユノ門ニ着シ御寶宮ヨリ直入宮ヲ經テ高千穂ノ二上宮ニ入與ス太玉天野奇耳
命大婚ノ禮ヲ掌ル外九名コレニ副タリ

皇后豊島媛尊ヲ産ム四歳ニシテ薨ス

諸皇子早世

天下ニ大赦ス
二代天皇降誕
三代天皇降誕

嬪室姫命皇女豐額媛尊ヲ産ム十一歳ニシテ薨ス又稻別彦尊ヲ産ム二歳ニシテ薨ス
皇后タマシ媛尊ヲ産ム四歳ニシテ薨ス

天皇大ニ悲ミ天神地祇ヲ親祭シ詔シテ天下ニ大赦ス

嬪富津姫命皇子ヲ孕テオホツチ。ヲツチニ。チアキ。ユアキス故ニ大分ノ黒ノ小濱ニ産宮

ヲ建テコレニ入シム彦波限建産葺草葺不合二代日子尊降誕○宮中ニ輕島産尊ヲ産ム

嬪由布鞆姫命豐光媛尊ヲ産ム

皇后黒ノ小濱ノ産宮ニ入御ス眞白玉眞輝彦尊降誕後ニ三代日子天皇ト稱ス○宮中ニ照媛尊

ヲ産ム

詔シテ群臣ニ議リ年中ノ儀式祭日等ノ恒例ヲ定ム

年始祭典並宴會

一月一日ハ天津太神 皇祖太神

二月ハ外祖神 三日ハ諸大臣

四月ハ御自身 五日ハ諸官員

六月ハ百姓 七日ハ戸長

八月ハ兵隊 九日ハ牛馬

十日ハ山岳 十一日ハ河川

十二日ハ海洋

年中祭日

二月二日桂柳ノ門代ヲ作り蓬ノ餅ヲ製シテ神祇ヲ祭ル(以下皆祭事ナリ略記ス)

三月三日柳櫻ノ門代ニ菘蘆子ノ餅

四月四日瑞葉。卯兒花ノ門代ニ櫻葉ノ餅

五月五日白膠木菖蒲ノ門代ニ茅ノ尾垂餅

六月六日柘。蟹花ノ門代ニ蓮葉ノ餅

七月七日千柳楓ノ門代ニ神桑葉ノ餅

八月八日根着萩花草花ノ門代ニ稻餅燒米

九月九日鶴木菊花ノ門代ニ柿餅

十月十日綠葉木ノ門代ニ十種ノ新穀ヲ飯ニ炊ク

十一月十一日山椿柏ノ門代ニ蕎麥餅

十二月十二日カサミフユサ花ノ門代ニ玉粟餅

兒屋表春命外二十三名ヲシテ大國ニ小郡ヲ置カシム

諸國ニ諸郡ヲ置ク

國令以下地方官ノ職制改ム

諸國令ヲ任ス

天皇親耕シテ正租ヲ免ヘ

言代玉代萬命ヲシテ小郡鄉村ノ司ヲ定メシム

國ノ司ヲ丈トシ○ヲクニノツカサヲ郡主トシ○サトノツカサヲ郷司トシ○ムレノツカサヲ戸長トシ○ヲムレノツカサヲ村主トス

國令ヲ任ス○キチカミ杉村彦命ヲ日隅國ノ令ニ○生玉魂詰命ヲ薩摩ノ令ニ○大土鬼拆命ヲ肥前後ノ令ニ○香山國持命ヲ對馬ノ令ニ○山咋大葛命ヲ壹岐ノ令ニ○岩拆立磐別命ヲ筑前後ノ令ニ○建豐足日受命ヲ豐前後ノ令ニ○水分豐生彦命ヲ長防藝ノ令ニ○若太刀振命ヲ隱岐ノ令ニ○久々幸彌魂命ヲ三備播作ノ令ニ○水方磐鳥命ヲ雲因伯石ノ令ニ○クヒサモチ五百村命ヲ兩丹但ノ令ニ○岩坂鷺組命ヲ伊豫ノ令ニ○國押作屋彦命ヲ讃岐ノ令ニ○又引國押彦命ヲ阿波ノ令ニ○天隅國之玉敷命ヲ土佐ノ令ニ○諾原毛光男命ヲ紀攝泉ノ令ニ○鳴海牛飼命ヲ大河山ノ令ニ○ササツ玉宿命ヲ近美ノ令ニ○息長狹岡命ヲ勢志尾ノ令ニ○水方馬探命ヲ飛信ノ令ニ○經津祝玉命ヲ遠甲三駿豆ノ令ニ○大雷荒環竟命ヲ武房相ノ令ニ○江水國形八耳命ヲ兩野ノ令ニ○金山纏命ヲ三陸磐岩二羽ノ令ニ○劍荒熊命ヲ三越加能若ノ令ニ○御雷飾磨命ヲ兩總常ノ令ニ○明玉雲卷命ヲ佐渡ノ令ニ任ス舊國守ハ齋ノ正ト稱シ其子孫ハ大宮仕子トス

天皇諸臣神田食田ヲ定メテ親耕艱苦ヲ嘗ム然トモ百姓初穂ノ年貢ヲ献ス諸國ノ令ニ詔シテ

堅クコレヲ止メシム

天地ノ神祇ニ奉幣シテ政體改正ノ旨趣ヲ告ルハ衞衣手命外二十九名樂ヲ作ル

○第十八綴

樂器ヲ製ス

男女ノ冠ヲ定メ服裝ヲ改正ス曰ク赤袍。曰ク黃袍。曰クマト袍。曰クキリ袍。曰クトモ袍。曰クトシ袍。曰クカヨ袍

斧鉞刀劍ノ製ヲ定ム

高千穂ノ大野原ニ天神地祇ヲ親祭ス

筑後ノ生葉郡ノ者山中ニ伐木シテ蜂ノ巢ヲ作ルヲ見ルイト光澤アリ其執來ル所ヲ尋レハ柞木ノ脂ナリ採テ板ニ塗ニ尤美ナリ故ニ楡ノ膳ヲ製シコレヲ塗リ以テ供御ノ御膳ニ献ス兒屋萬添持命コレヲ傳奏ス詔ニ曰ク美麗ク塗レリト故ニコレヲウルシト云フ賞シテウルハシ頭ト名ヲ賜フ

磐城ノカウチノ郡ノ百姓アタエ磨外六名議テ龍舟ヲ造リ地方ニ臨幸ヲ願フ令金山纏命其船ニ乗テ大分ノ瓜生ノ門ニ着ス時ニ六月二十三日ナリ御寶宮ニ來テ豐前後ノ令豐足日受命ニ會シテ事情ヲ陳ス日受命コレヲ高千穂ノ大宮ニ奏ス

東國巡幸ヲ願フ

漆器ヲ献ス

神祇ヲ祭ル

男女ノ冠袍ヲ定ム

樂器ヲ製ス

高千穂ノ大野原ニ天神地祇ヲ親祭ス

筑後ノ生葉郡ノ者山中ニ伐木シテ蜂ノ巢ヲ作ルヲ見ルイト光澤アリ其執來ル所ヲ尋レハ柞木ノ脂ナリ採テ板ニ塗ニ尤美ナリ故ニ楡ノ膳ヲ製シコレヲ塗リ以テ供御ノ御膳ニ献ス兒屋萬添持命コレヲ傳奏ス詔ニ曰ク美麗ク塗レリト故ニコレヲウルシト云フ賞シテウルハシ頭ト名ヲ賜フ

磐城ノカウチノ郡ノ百姓アタエ磨外六名議テ龍舟ヲ造リ地方ニ臨幸ヲ願フ令金山纏命其船ニ乗テ大分ノ瓜生ノ門ニ着ス時ニ六月二十三日ナリ御寶宮ニ來テ豐前後ノ令豐足日受命ニ會シテ事情ヲ陳ス日受命コレヲ高千穂ノ大宮ニ奏ス

東國巡幸ヲ願フ

漆器ヲ献ス

車駕高千穂ヲ發ス

風ノ方向ノ稱定ム

磯場ヲ獻ス

東國巡幸

東國巡幸ノ令ヲ發ス皇后同車思兼深宮彥命外十三名供奉タリ○大分ノ白杵ニ繫グ所ノ大船三艘ヲ飭ル○車駕大分宮ニ到ル隣國ノ百姓來集シテ方物ヲ獻ジ種々ノ山鉾ヲ出シテコレヲ賀ス○風ノ方向ヲ稱シテ曰ク。コゼ。イコゼ。マゼ。ヤマゼ。ナゼ。アナゼ。ヨゼ。コモゼト云々○豊後ノ百姓手力八呂フジノ木實ヲ採テ油ヲ絞ルニ堅ク凝レリ故ニ葉ナキ立草ノ中ノ蘆ヲ採テ細ク卷キコレニ注テ火ヲ點ズルニ甚ダ便ナリ。又籠ヲ作りテ紙ヲ張り夜行ノ便トナシコレヲ船中ノ調度ニ獻ズ詔シテ能明火屋ナスト故ニ其凝油ヲ以テ製スルモノヲコカト云ヒ其火ヲ構フ器ヲホヤト云フ

龍舟東ニ向フ底津五十權命徹執タリ速吸門ヲ發ス長門ノ人ハ豊日津ノ灘中ニ船ヲ並テ迎ヘ伊豫ノ人ハキ、タノ濱ヨリ灘中ニ船ヲ並テ迎ヘ伊豫ノ人ハキ、タノ濱ヨリ灘中ニ迎ヘテ共ニ臨幸ヲ乞テ互ニ爭フ大臣等制シテ先穴門ノ濱ニ臨御シ次ニ愛媛ノ濱ニ臨御ス時ニ方物ヲ獻ズレドモ納レズ方物海濱ニ滿ル此所ヲ三ツノ濱ト云フ海岸所々ニ臨御シテ伊勢ノ濱ニ臨御ス此所ヲイロシト云フ遠江ノ沖ヲ過ル海見頭火ヲ點セシ所ヲミカ、サキト云フ武藏門ニ泊ス所ヲミウラト云フ陸奥ノホグラノ門ニ泊ス海見頭火ヲ點セシ所ヲホタチト云フ八月十日イシカハノ大宮ニ着輦ス土人先樂ヲ奏ス又海濱ニ獵船ヲ多ク出シテ漁獵ヲ遊覽ニ供ス駐輦スル凡一年○津輕ノ人又臨幸ヲ乞フ則臨御ス曩ニ蝦夷國ヨリ來ル魚取男

東國ヨリ還幸

天皇崩ス

二代彦天皇治世

新體文字成ル

年三十餘力量人ニ勝ル又マシマ川ノ邊ニ居ルマシマ足ト庭上ニ角力ヲナス足勝タリ大ニ興アリ
越中ノニヒヤヘノ宮ニ臨幸久シク駐輦○二丹但ニ巡幸スルニ百姓皆富饒龍顏ニ喜色動キ御製ヲ賜フ老翁和シテ拜謝ス
出雲ノ杵築宮ニ臨幸ス令水方磐鳥命アキノ海岸ニ龍舟ヲ浮ヘテ迎フコレヨリ穴門ヲ經豊後ノ瓜生港ニ着御シ一月十一日二上大宮ニ還幸ス
供御ノ法ヲ定ム

○第十九綴

大御穗產靈命並豊受命外二十四神ヲ祭祀シテ神饌ヲ供ス
天皇日向ノ奇日ノ高千穂ノ二上大宮ニ崩ズ壽六百餘歲東宮ニアル百餘歲治世三百餘歲仙洞タル百餘歲テナノアヒラノ山ノ上ニ葬ル陵中劍璽槍扇ヲ納ム
日高日子波限建產葦草葺不合二代日子天皇橋立媛命ヲ立テ皇后トス
思兼蓋之由布榮彥命ヲ大臣トシ以下職ヲ定ム舊例ノ如シ
詔シテ五十言文命ノ書タル形假名ヲ以テ積羽八重言代主命ノ文章ニ綴リシヲ改メテ言代兄太田命言代弟太田命ノ二名ニ大分ノ速吸門ノ向島ニ書改メシム新體清音五十字

筆墨紙ヲ製ス

ア由サ由フハマ中ラワ
イキ山火山山山山山山
ラ多火口企フズユルコ
エ叩又ヤ上ハメセレソ
ヲコ口トヘヒ今六丁甲
濁字二十字
ハキクケコ サシスメソ
口止回テト ハヒーツヒ
添字ニ字
仲
ハ

ノ七十二字ヲ製シテ楮濃高彦根命ノ發明シタル紙ヲ作り水押墨命ノ發明シタル墨ヲ製シ
去年立ノ竹ヲ割テ泥中ニ涵ス八日其先ヲ叩キ筆ヲ作りテコレヲ書記ス甚タ叡威アリ群臣
大ニコレヲ賞ス

天皇讓位

三代天皇即位

天皇御惱多シ依テ皇弟ニ讓位ス治世十四年壽百六歲
皇弟眞白玉眞輝彦尊神器ヲ奉シテ正殿ニ即位スコレヲ

皇太子玉嚼尊降

日高日子波限建彦葦草葺不合三代彦天皇ト稱ス
大臣以下諸官故ノ如シ○日向肥前後豊前後ノ百姓即位ヲ賀シテ樂ヲ奏ス
皇后上照媛尊皇女噓樂媛尊ヲ産ム
妃高山姬命皇子瀬之上彦尊ヲ産ム
皇后白杵ノ佐野ノ小濱ノ産宮ニ入御シ十五月ニシテ玉嚼尊降誕コレヲ皇太子ト爲ス後ニ四
代天皇ト稱ス

漢支那ノ使者ニ
蝦種ヲ賜フ

農學教師ヲ漢支
那ニ遣ス

妃天津五百玉彦尊ヲ産ム
皇后天津國玉尊ヲ産ム
漢支那國王ケエニノ使シイナ對馬島ニ渡來ス對馬令香山國持命應接ス。シイナ云ク我主ケ
エニ。カムヌリト境ヲ爭フニ我國敗セントス故ニ來朝シテ米穀ヲ請フ。ト令其使者シイ
ナヲ率テ筑前後ノワニトニ着シ高千穂ノ直入宮ニ參朝シテコレヲ奏ス
詔シテ大臣兒屋八島手命思兼櫛形命太玉眞膳命以下八名ヲ令テ之ヲ議セシム議員奏シテ云
ク其種ヲ賜フヘシト依テ詔シテ赤稻粟稗豆ノ實種百石宛ヲ給與シ日向ノ宮崎ノ沖門ニ
船ヲ作ラシテ豊受天津諸手命外四名ヲ農學教師トシ沫諾玉主命外二名ヲ船將トシテ彼國
ニ遣ス後四年ノ一月十一日各歸朝シテ復命ス

醫術隆盛

高雄頭彌魂幸命外七名ノ侍醫相議シテ上皇ニ良藥ヲ献ス二年未滿ニシテ御惱癒ユ
上皇大野ガ原ノ宮ヲ仙洞トシテ大ニ醫術ヲ興起シ少名大久米命外七名ノ醫員ヲ令テ藥草ヲ
經驗セシム○八名ノ醫官四方ヲ奔走シ四年ヲ經テ七十八種ノ草根木皮ヲ撰シ藥法ヲ定メ
テ之ヲ献ス

猿ヲ解剖ス
人身窮理

少名アウハリ命外七名ノ醫官猿ヲ養テ藥功ヲ試驗シ又コレヲ解剖シテ十二ノ腸分ヲナス
人身ハ風火水土ノ四氣ニ基キ凝テ靈魂ヲ有スルハ天神ノ妙用ナルコトヲ發明シ四脈ノ所在
ヲ研究シテ其良否ヲ察シ病根ヲ探偵スルノ法ヲ定ム○内外ノ病根ヲ説キ男女ノ骨格臟腑
ノ位置ヲ論シ飲食ノ得失ヲ辨ス○椎ツルバミ樞ノ三木實ヲ常ニ食スレハ滋養ナルコトヲ
論ス

○第二十綴

上皇今上ニ詔シテ曰ク。コレヨリ先ニ經驗スル所ノ藥法並衛生法ヲ天下ニ示サント欲スト
天皇大ニ悅フ上皇八名ノ醫官ニ詔シテ全國ヲ巡回スヘシ朕モ亦巡幸セント猿ノ雌雄ヲ率
セテ諸道ニ遣ス○高雄頭彌魂幸命ハ飛信遠甲三駢豆武相房。山代茅命ハ大河山紀泉攝伊
志尾。近美。楮漣岩村命ハ兩野兩總常。山代千々木立命ハ磐岩三陸二羽。大物主耳建命
ハ三越加能若。大國世關命ハ二丹但雲石因伯。少名大原命ハ讚士豫阿。少名大脛命ハ筑

醫官ニ全國ヲ巡
回セシム

上皇畫ヲ畫ク

衛生法ヲ天下ニ
示ス

前後肥前後薩ニ到リテ各所ノ村主ニコレヲ教授ス
上皇直入宮ヨリ大分宮ヲ經テ速見ノ速玉ノ家ニ入御シ夫ヨリ宇佐川ノ川上宮ニ行幸シ又新
宮ニ入御ス此所ヲ宮所ト云フ○百姓ヲ集テ角力ヲ催シ後力量ヲ試ルニ五斗俵ヲ頭上ニ差
上ル者二人四斗俵ヲ差上ル者八人コレヲ賞シテ天之小弓ヲ賜フ○侍臣伊豆大倉命身丈三
尺程ノ短人ナリシガ庭上ニ出テ五斗俵ヲ差上ル衆甚々驚ク餘ノ侍臣皆コレヲ行フ終ニ上
皇五斗俵ヲ十八度差上テ直ニ机ニ向ヒ處女ノ櫻花ヲ詬フ狀ヲ畫ク衆大ニ驚歎ス
上皇詔シテ百姓ノ壽命ヲ問シム百歳ヲ過ルモノナシ又食物房事ノ度數ヲ問フ規律ナシ上皇
大ニ宸襟ヲ煩シ直ニ其法ヲ示サシム
上皇天皇ニ告テ曰ク天下ノ百姓多ク衛生ノ法ヲ守ラス國家ノ大病コレヨリ大ナルハナシト
天皇直ニ詔シテ大臣兒屋八島手命外三十四名ヲ全國ニ巡回セシメテ食ノ分量房事ノ度數ヲ
説論ス其法ニ曰ク

食物ノ分量

ワラハ一合	ウナキ二合	イカシ三合	ハヤリ四合	マストラ五合
スケ四合	マスケ三合	チヌ三合	マチヌ三合	サキヲ三合

房事ノ度數

兩皇東西ニ巡幸ス

イカシ 房事ナスヘカラス
ハヤリ 一日下リ マスラ 二日下リ スケ 四日下リ
マスケ 六日下リ チヌ 九日下リ マチヌ 隨意

上皇天皇天下ヲ巡幸ス大臣スセリ幸魂別命外十二名供奉タリ大分ノ速吸門ヨリ龍舟ヲ發シ攝津ノ生玉門ニ着御シ上皇ハ西方ニ天皇ハ東方ニ巡幸ス

天皇兩總常國シキタ郡ニ臨御ス。ナリキ村ニ老夫トリノヲ年百六十四老婦年百五十七ノ者アリテ子孫尤繁榮セリ天皇大ニ之ヲ賞ス○越前國ノサカタ郡カハノヘ村ニ臨幸シテ寒氣ヲ凌ク法ヲ教諭ス

上皇ハ兒屋八雲織命外六名ヲ率テ兩丹但國ニ巡幸ス百姓多ク穴居ス上皇大ニ驚愕シテ直ニ紀泉攝ノ大工ヲ召シ人民ノ家屋六千七百三十二戸ヲ作ラシメテコレニ遷ス百姓大ニ悦フ上皇御製アリ而テ後ニ食物藥法衛生等ノ法ヲ教諭ス○三備播作ヨリ龍舟ヲ伊豫ニ渡シ四國ヲ巡幸シ轉シテ雲石因伯ニ臨御シ長防藝ヲ經テ車駕豊後ノ大宮ニ還ル時ハ翌年ノ七月三十日ナリ

車駕東ニ還ル
牛馬醫ヲ設ク

天皇ノ車駕高千穂ノ大宮ニ還ル時ハ翌年ノ六月七日ナリ
五日ノ諸國奏シテ云ク曩ニ藥法以下諸法ノ勅諭ヲ奉スルヨリ爰ニ二十年其功驗著明トシテ

官員巡回

百姓萬歲ヲ諷フ然ルニ往々牛馬ノ疾病アリ冀クハ其活皇法ヲ教諭アラシコトヲ詔シテ兒屋八幡命外十六名ヲ命テ其法ヲ定メシメ栲漉立岩命外七名ヲ諸道ニ遣ハシテコレヲ教授セシム各三年ヲ經テ復命ス

天皇體位

即位ノ百七十八年ニ三十四名ノ官人ヲ諸道ニ遣シテ民間ノ事情ヲ觀察セシムルニ無病長壽ノ者大ニ増加シ農事殊ニ盛大億兆昇平ノ澤ニ浴スト復命ス

四代天皇即位

天皇三種ノ神器ヲ皇太子玉嚙命ニ授ケ直入宮ヲ以テ仙洞トス
皇太子玉嚙尊即位スコレヲ

上皇崩ス

日高日子波限建產葺草葺不合四代彥天皇ト稱ス
上皇高千穂ノイサノナキリノ宮ニ崩ス。ナキリノソノカシ山ノ顛ニ葬ス

○第二十一 綴

五十鈴媛尊ヲ立テ皇后トス

皇太子赤球彥尊降誕

皇后白杵ノ大島ノ八窓產宮ニ入御ス天地明成赤球彥尊降誕コレヲ皇太子トス後ニ五代天皇ト稱ス

嬪皇女八千種媛尊ヲ産ム

次嬪皇女彌榮媛尊ヲ産ム

官廳改正

詔シテ表春八島手命外八名ニ議シテ表春中臣御祖命太玉忌部御親命思兼齋部御祖命ヲ太政大臣ニ表春中臣命外五名ヲ參議ニ任ス○息長道守男命外五十名ヲ文官ニ日別瀬之上命外五十二名ヲ武官ニ任シテ天下ヲ巡視セシム○事勝木採男命外四十八名ヲ諸工業長ニ任ス○埴安道明彦命外三十名ヲ勸農頭ニ任シテ天下ヲ巡視セシム

天皇親耕

每戸神棚ヲ設ク

天皇公田ヲ親耕ス皇族大臣コレヲ學ンテ窮民ヲ救恤ス

制度ヲ定ム

内侍所ヲ造營シテ天神地祇ヲ祭典ス○全國ノ每戸ニ神棚ヲ設クヘキ令ヲ布ク

人生一世ノ勤務

人生一世ノ勤勞ヲ定ム其法ニ曰ク

ワラハ男女ハタシニ撫育メ

ウナキ男女ハ力招ヲ教ヘ

イカシ男女ハ家業ヲ教ヘ

ハヤリ男女ハ家業ヲ勉強ケ

マストラ男女ハ戸主タレ

スケケ男女ハ官員タレ

マスケケ男女ハ郷司タレ

チヌ男女ハ國主タレ

マチヌ男女ハ宮内ニ奉仕セヨ

魯國ノ使者來泊

即位ノ五十六年九月二十四日越後國ク、キノ郡ノイマスノ長濱ノ港ニ外國ノ大船來泊ス國會劍若熊命僚屬ヲ率テコレニ應接ス。オルシノ國王アカスヒデノ使者ユテル王命ヲ陳テ穀物ヲ乞フ國令屬官谷熊ノ三呂ノ男ヲ令テ高千穂ノ大宮ニコレヲ奏ス道路十三日ヲ經テ大宮ニ達ス

魯國ノ使ニ米穀ヲ賜フ

詔シテ郡郷ニ議リ米百五十石雜穀三百石昆布類五十束ヲ賜フ

魯賊來襲

五十九年又來泊ス米百石穀物二百石ヲ賜フ

國內ノ兵ヲ以テ防禦ス

六十年大船三十艘軍勢三千人ト聞ユ。王アカヒデ自ラ諸軍ニ將トジ。ユテルヲ以テ先鋒トナシ來泊シテ國令ニ云フ今ヨリ後毎歲米穀ヲ納レヨ然ラスンハコレノ王ヲ絞殺セント國令直チニ屬官ヲ上京セシメテコレヲ奏聞ス詔ニ曰ク彼兵ヲ用キハ免スヘカラス先國內ノ兵ヲ以テ防禦スヘシ不日官軍モ進發スヘシト爰ニ於テ國令劍若熊命年百三十一令ヲ傳ヘテ郡司十一名郷司七名ヲ郡將トナシ國內ノ人民一千余人ヲ募リ防禦ノ備ヘヨナス賊ノ先鋒ユテル兵ヲ率テ上陸シ人民ヲ妨害ス部將谷熊ノ三呂ノ男進テユテルヲ捕ヘ其首ヲ引拔

竿頭ニ貫テコレヲ立ル賊將アカヒデ大ニ怒リ賊軍ヲ進メテ石礫ヲ投シ或ハ風上ニ毒烟ヲ起ス我兵之ニ苦ム國令指揮シテサセノ木ノ葉ヲ清水ニ涵テコレヲ吞シム惱者皆醒タリ或ハ射或ハ斬リ連戦十日ヲ過ク我兵死二十人ニ滿ズ傷者二百余人國令郷司兩名ニ謀ヲ授ケテ佐渡ト能登ノ羽咋ニ遣ス○高千穂ノ大宮ニハ御雷下薙命ヲ征夷大將軍ニ御雷伊建手長雄命ヲ副將軍ニ任シ錦旗節刀ヲ賜フ官軍三千人大分ノ門ヨリ舟行シテ遠江ノミマヤノ門ニ著シ直ニ越後ニ進ミ國令劍若熊命ニ代ル○官軍進テ賊ヲ討ツ賊大ニ走ル賊將船中ノ兵ヲ上陸セシム船中空虛殘レル賊徒一艘十人ニ過ス爰ニ於テ陸戰酣ナル時ニ佐渡ト能登ノ羽咋ヨリ小舟數十艘ニ燒草ヲ積テ賊船ニ進ミ船中ノ賊ヲ或ハ斬リ或ハ海ニ投シテ每船ニ放火ス焰烟天ニ漲ル賊兵コレヲ見テ大ニ驚キ隊伍亂ル二將軍馬ヨリ下テ急ニ令ヲ傳ヘテ攻撃ス國令若熊命コレヲ見テ再ヒ國內ノ兵ヲ率キ前軍ニ協力ス前軍兵ヲ二隊ニ分チ一隊ハ直ニ賊ノ本陣ヲ突ク此日官軍ノ戰死三十余人賊敗走シテクリスノ郡ニ遁ル官軍之ヲ追フ。ソコ谷間ニ隠ル山上ヨリ大石ヲ投シテ攻撃シ終ニ王アカスヒデヲ捕ヘ莖長葛ヲ以テコレヲ縛ス○征夷大將軍賊魁アカスヒデヲ見テ曰ク曩ニ汝ガ云シ如ク今ハ汝ヲ絞罪ニ行フヘシト賊魁流涕シテ今我ニ死一等ヲ免サハ子々孫々ニ至ルト雖モ貴國ニ對シテ非禮ヲ行フヘカラスト其罪ヲ謝ス將軍コレヲ聽シテ殘賊三百余人ト共ニ船ニ乘ラシメ風ニ任セ

テ流シ凱歌シテ復命ス
詔シテ全國ニ鎮臺ヲ置ク

- 薩摩國令 明津大鹽見命
- 日隅國令 埴安道明萬命
- 肥前後國令 宗像クニカラ命
- 筑前後國令 宗像土之底別命
- 豊前後國令 オキタテ豊日別命

- 以上五日國ハ令ヲ置テ鎮臺ヲ置ク
- 對馬國ノカミツノ郡ノカミ山ニ狹土畠津別命
- 伊豫國ノクハノ郡ノマガナ山ニ山津見波限鳥命
- 讃岐國ノ三木立郡ノコモリニ高雄頭幸命
- 土佐國ノ高岡郡ノウマキ山ニ水上若八川命
- 阿波國ノ美馬郡ノソメナスノ山ニ御年熊緒之雄命
- 長門國ノ美禰郡ノカスカ山ニ大物主耳建命
- 出雲ノ秋鹿郡ノシキ山ニ生津ク、メ命

備中國下道郡ノチワケ山ニ大國ヤナキイナキ命
但馬國ノ養父郡ノシキ山ニ其彦浦安命
攝泉紀國ノユナノ郡ノオマタノ原ニ生玉タタチアシベ命
大和國ノ吉野郡ノヨシロ山ニ生津言代命
近江國ノ淺井郡ノミツチ山ニ香立狹雄千建命
伊勢國ノ鈴鹿郡ノ鈴鹿山ニ明玉クモマリ命
信濃國ノ高井郡ノタラス山ニ三降谷間彦命
伊豆國ノ田方郡ノテル山ニ天隅村人戸別命
相模國ノ大住郡ノコナリ山ニ木股八百求命
上野國ノサホ郡ノサヲ山ニ積羽香立命
常陸國信太郡ノトム山ニ若年玉松命
陸前國ノモノフノ郡ノカムタテ山ニ甘美額田彦命
加賀國ノノミノ郡ノホダテ山ノ山上ニ楮漉立磐命
隱岐國ノアマノ郡ノアマ山ニク、チサネユキチモチ命
佐渡國ノ賀茂郡ノカサマツ山ニ丹羽八代門別命

阿蘇郡ノカ、リノ山ニ速日スガモチ命大雷コモリタテ命
右各令ニ任之各所鎮臺ノ指令長官タリ此鎮臺專ラ外寇ニ備ヘ變ニ應シテ先國內ノ兵ヲ以
テコレヲ防禦シ直ニ奏上ニ及フヲ規則トス
二丹但國ノタカマドノ郡ノ郷司ハヤキ麿ノ女花咲女鎮臺ノ落成ヲ賀シテ歌ヲ作り參朝シテ
舞曲ヲ奏ス此女風姿優美ト雖モ顔色頗ル醜ナリ故ニ自ラ佳人ノ微笑スル木面ヲ製シテ之
ヲ著ル賞シテ其父子ニ名ヲ賜フ

383
110

昭和十三年六月十五日印刷
昭和十三年六月二十日發行

不許
複製

發行所

東京市世田谷區代田二丁目一、〇五一

國教宣明團

振替東京七四四六九番

編纂者兼
發行所

酒井勝軍

東京市世田谷區代田二丁目一、〇五一

印刷者

川瀨壬子

東京市神田區鎌倉町一一

本書の刊行が時代の要求に對し如何に多大の貢獻を爲し居るかを記憶する限り此原書を提供せられたる故佐伯元吉翁の靈前に伏し讀者と共に感謝の意を捧ぐ

酒井勝軍

終